

令和3年度八戸市文化事業取組状況一覧

※事業費の単位：千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
施策 1			ふれる・ふかめる～文化芸術に親しむ～										
取組方針 1			市民による多彩な文化芸術活動振興のための仕組みや枠組みの構築										
1	1	1	文化芸術の振興に資する活動への表彰事業	文化創造推進課	S38	八戸市文化賞規則に基づく表彰事務 当市の文化の向上発展に貢献し、その功績が優れていると認められるものや、将来その活躍が一層期待されるものを表彰する。	八戸市文化賞と八戸市文化奨励賞の2種類がある。 申請は推薦制(自薦不可)、審査会において受賞者を決定。 例年、11月3日(文化の日)に、八戸市スポーツ賞と同日に表彰式を行う。	238	328	文化賞受賞者 6名 文化奨励賞受賞者 2名 ※他部署が実施する表彰事業 ○八戸市表彰条例に基づく表彰事務(総務課) 八戸市功労者・善行者表彰 受賞者:功労者28名(うち文化功労者5名)、善行者9名	引続き、文化芸術関係の功績がある者に関する情報収集に努めながら、関係団体等への推薦依頼、及び広報による一般公募の周知などを行い、継続実施。 引き続き庁内関係課に対し、「推薦にあたっては分掌する事務に関係する団体等を十分調査するか、又は協議する」など、該当者の発掘に努めるよう依頼し、事業を継続する。	制度の見直しを検討し、文化プランを推進していく必要がある。	受賞者の功績を一般に広く周知することで、当該分野の後進となる人材等の目標ともなり、文化芸術の振興発展に寄与している。
2	1	1	文化協会補助事業	文化創造推進課	S36	本市における芸術・文化活動の振興を図るため、八戸市文化協会に対し、補助金を交付する。	行政と各種文化団体との間の連絡調整、及び、情報交換の推進等の文化振興事業に要する経費を予算の範囲内で交付する。	2,629	2,629	補助金交付決定額 2,628,400円 ・事業遂行のための経費 1,000,000円 ・運営のために必要な経費 1,628,400円	協会が、主財源のみで運営するのは難しく、現在行っている事業の継続、当市の文化芸術の向上のためにも、今後も補助金の交付を継続したい。	会員減少に伴い自主財源が減少すると活動継続のために当該補助金の増額が想定される。	文化協会は、文化行政を代替して公益的な活動を行う団体であり、市内で他に代替すべき団体はないことから、その運営経費等の支援は、妥当と考える。
3	1	1	文化芸術活動支援補助事業	文化創造推進課	H20	多様で特色ある市民の自主的な文化活動により、まちの魅力創造を図る。	先駆的・実験的・創造的な芸術文化活動に対して、補助金を交付する。 対象経費 上限100,000円/個人・団体	200	500	補助金交付先(計2件) ・まちぐみラボ2階ギャラリー化&アトリエ化計画 ・墨縁書展第10回記念特別企画 原拓展	支援内容を見直し、更なる昇華を目指したい。	制度設置から10年以上経過していること、新規申請者が減少傾向にあることから、支援内容の変更が必要と考える。	これまでになかったジャンルの制度利用であったことは評価できる。
4	1	1	ワークショップ開催支援事業	文化創造推進課	H20	市民が多種多様な文化芸術活動に親しむ機会を提供する。	○対象施設:市公民館、南郷文化ホール、更上閣 ○助成内容 施設使用料(楽屋、附属設備等を含む。)の全額免除、ワークショップ開催のPR	0	0	申請なし	近年活用実績がないことから、支援内容の検証及び制度の周知に取り組んでいく。	近年活用実績がないことから、支援内容の検証及び制度の周知に取り組んでいく。	「申請なし」の理由が、制度を知らない、助成額が少額なのに申請手続が煩雑である、その他なのか、検証は難しいが、一人でも多くの人に活用してもらえよう制度の検証をしていきたい。
5	1	1	演奏会補助事業	文化創造推進課	H24	公会堂ホールでのオーケストラ(管弦楽、弦楽、吹奏楽)の演奏会を通じて、市民が芸術性豊かな音楽に触れる機会を提供する。	市内に拠点を置き、10人以上(市民が半数以上)で構成するアマチュア団体が開催する演奏会の、演奏会当日、及び、リハーサル1日分の公会堂使用料を補助するもの。(上限20万円)	376	600	補助金交付先(計4件) ・八戸ウインドアンサンブル ・八戸マンドリンアンサンブル ・八戸ジュニアオーケストラ ・インフィニート・コラルコ	オーケストラによる音楽鑑賞に触れる機会として、継続実施したい。	申請者が固定化する傾向にあるため、補助対象や要件の見直し等の検討が必要と考える。	令和3年度は、公民館ホールが使用不可だったことから、初めて公会堂ホールで演奏会を行った団体の申請が際立った。
6	1	1	大会等出演補助事業	文化創造推進課	H13	文化活動発展の原動力となることを期待し、支援する。	国際大会や全国レベルの大会に出演する際の交通費等の経費を補助。 (上限額は大会の種別による)	0	100	交付実績なし 基準額 ○国際大会(国外) 30,000円/人 ○国際大会(国内)及び全国大会 開催地域によって5,000円、3,000円、2,000円/人 ○国民文化祭 10,000円/人	文化団体及び個人の活動発展を支える補助金であるため、継続したい。	制度の周知方法を工夫し、継続していきたい。	「実績なし」の理由が、制度を知らない、助成額が少額なのに申請手続が煩雑である、その他なのか、検証は難しいが、一人でも多くの人に活用してもらえよう実施していきたい。
施策 1			ふれる・ふかめる～文化芸術に親しむ～										
取組方針 2			子ども達の文化芸術の鑑賞や学びの機会の充実										
1	1	2	八戸イカールミュージックキャンプ	文化創造推進課	H30	プロの演奏家や音大教授等の指導により、プロの演奏家を輩出する。 ※市民が良質な音楽を鑑賞できる機会を創出する「イカール国際音楽祭」併催事業	プロの演奏家を目指す市民等を対象にしたレッスンのほか、関連講座や終了演奏会、ガラコンサート等を行う一連の事業。			事業実施期間 令和3年8月13日～8月19日 受講者数 64名 ※開催期間中の8月14日、新型コロナウイルス陽性者1名が判明したため、同日午後以降のレッスン及び終了演奏会を中止。	今後も事業が継続される予定であることから継続する。	補助事業自体の成果はもとより、当市各方面への波及効果等を鑑みながら、中長期的な視点での検討を行う必要がある。	新型コロナ陽性者の発生に伴い、事業は予定通りの実施に至らなかったが、臨機応変の対応ができたことは評価できる。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
2	1	2	八戸市公会堂文化事業(業務委託)	文化創造推進課	S50	子どもたちの文化芸術の鑑賞や学びの機会を充実させる	公演等の文化事業や子どもを対象としたアウトリーチ型の事業を、指定管理者への業務委託により、年間概ね5回以上実施する。	5,500	5,500	○実施 2公演 ・ディズニーオムクラシック「まほうの夜の音楽会」(11/2) ・第41回新人演奏会(11/16) ○中止 3公演・アウトリーチ(新型コロナ施設休館) 公演 ・角笛シルエット劇場 ・第15回八戸パフォーマンス劇場 アウトリーチ ・なぎさプラスソリステンによる高校生を対象としたクリニック	今後も継続して事業実施し、地域住民が文化芸術に触れる機会を創出する。	指定管理者と共に、事業内容や効果について検討し、内容の充実を図りたい。	新型コロナの影響により実施に至らなかったため、評価できず。
3	1	2	南郷文化ホール文化公演事業(業務委託)	文化創造推進課	R3	子どもたちの文化芸術の鑑賞や学びの機会を充実させる	公演等の文化事業や子どもを対象としたアウトリーチ型の事業を、指定管理者への業務委託により実施する。	1,386	3,000	実績なし。 TingTing(ティンティン)中国琵琶コンサートのアウトリーチ事業として、TingTingによる南郷地区の中学生を対象とした講演会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。	今後も継続して事業実施し、地域の子もたちが文化芸術に触れる機会を創出する。	指定管理者と共に、事業内容や効果について検討し、内容の充実を図りたい。	新型コロナの影響により実施に至らなかったため、評価できず。
4	1	2	指定管理者実施事業(公民館自主事業)	文化創造推進課	S52	子どもたちの文化芸術の鑑賞や学びの機会を充実させる	指定管理者が自主的に行う事業として、企画実施する。	0	0	○実施 1事業 ・第9回うみねこ演劇塾(ジュニア塾) R3.10~R4.1 全21回 延べ456人 ※シニア塾との合計人数 ○中止 1事業 (新型コロナ施設休館) ・はちのへこどもフェスタ	地域の文化向上、情操教育に寄与するため今後も継続実施する。	新たな参加者層獲得のため、新規事業の検討の余地あり。	継続して事業を行っているため、認知度も上がっており、地域文化の継承、情操教育に一定程度貢献していると考えている。
5	1	2	指定管理者実施事業(更上閣自主事業)	文化創造推進課	H18	市民が憩い、集える交流の場を提供し、かつ、市民が伝統文化に触れる鑑賞の機会を提供することにより、伝統文化の普及振興を図る。	指定管理者が自主的に行う事業として、春に武者人形展、秋に菊花展等を企画実施する。			・更上閣菊花展 令和3年10月30日~11月21日 延べ960人 ・新型コロナウイルス感染症の影響により中止したものの武者人形展、ひなまつり展	今後も雛人形展、武者人形展や菊花展等を継続実施する。	イベントの周知について、指定管理者とともに検討し、認知度の向上に努める。	節句の時期にその意味を伝え、体験できる取組は評価できる。
6	1	2	小中高校連携事業	美術館	R2	学校現場で活用しやすいプログラムや教材の開発・実践・発表を行う。	小中高の教員と美術館学芸員、専門家プロジェクトチームを構成し、学校現場で活用しやすいプログラムや教材の開発・実践・発表を行うなど、教育普及事業を実施する。		772	美術館オープン前の段階から「学校連携プロジェクトチーム」を立ち上げ、メンバーの教員の発案で下記の事業を実施した。 1. 大きな絵制作プロジェクト 市内の小中高校生が一緒に美術館のジャイアントルームに掲示する大きな絵を制作した。 2. 小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト 「こころ」をテーマに小中高校生が作品を制作し、館内に展示するとともに、小グループに分かれて高校生がファシリテーターを務める鑑賞会を行った。 3. 美術館新聞部プロジェクト 小学生と高校生が美術館の関係者に取材し、新聞を制作・発行した。	・前年度に引き続き、「学校連携プロジェクトチーム」を設置・運営し、教員と学芸員による研究・実践活動を行う。	学校の先生方が業務で忙しく、全員のスケジュールを合わせて集まって活動することが難しい状況にあるため、気軽に参加しやすい運営体制を構築する必要がある。	美術館を拠点に、日頃の事業では行えない、小中高の校種を超えた活動が行えるほか、先生同士の情報交換や、先生と学芸員がお互いに相談し合える環境が創出され、事業効果は大いにあったと感じている。
7	1	2	暮らし学アカデミー(2-1)	八戸ポータルミュージアム	R3	文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなど、様々なテーマに合わせて、市内外の講師等による体験や学びの機会を提供することで、新たな来館者の獲得を目指すとともに、参加者の「暮らし」に質的な豊かさをもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心市街地にこだわりながら、八戸での暮らしを楽しむことにつながる学びの機会を提供することを目的に、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなどの多種多様な講座やワークショップを継続的に開催する。	100	872	ライフスタイル、環境、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、など生活を楽しむ多種多様な講座やワークショップを月1回程度開催。R3年度は9講座開催。 ■整理収納基礎講座(楽しむおうちゴト) ・実施日:2021年5月9日(日) 参加者29名 ・講師:長沖みのり ■本気のえんぶり人形(人と〇〇と地球) ・実施日:2021年6月9日(水) 参加者19名 ・講師:下崎雅之 ■アウトドアデビューをしよう!(アウトドアのココロ) ・実施日:2021年8月9日(月・振) 参加者8名 ・講師:亀橋陽平(グリーンハウス八戸店) ■キャンプYou Tuberいずみさんと、キャンプの極意を語る!(アウトドアのココロ) ・実施日:2021年10月3日(日) 参加者30名 ・講師:いずみ(いずみキャンプチャンネル)	様々なテーマに合わせて、多様な講座やワークショップを開催することにより、参加者に体験や学びの機会を提供し、生活に変化をもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心街にこだわりつつ、テーマを設定した企画内容とすることにより、各分野について深く学ぶ機会が提供でき、参加者の生活に変化が生まれるような企画として継続的に実施していく。	定期的かつ継続的に中心街での学びの機会を提供することにより、リピーターや新たな来館者の増加につながることも、中心街の賑わい創出につながる。
8	1	2	暮らし学アカデミー(2-2)	八戸ポータルミュージアム	R3	文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなど、様々なテーマに合わせて、市内外の講師等による体験や学びの機会を提供することで、新たな来館者の獲得を目指すとともに、参加者の「暮らし」に質的な豊かさをもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心市街地にこだわりながら、八戸での暮らしを楽しむことにつながる学びの機会を提供することを目的に、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなどの多種多様な講座やワークショップを継続的に開催する。	100	872	■プロが伝授!ラク家事お掃除テクニック(楽しむおうちゴト) ・実施日:2021年11月28日(日) 参加者15名 ・講師:今美由紀(八戸液化ガス株式会社 はちえきレディ) ■ライフスタイルから選ぶインテリア(楽しむおうちゴト) ・実施日:2021年12月18日(土) 参加者25名 ・講師:柴田一則(株式会社 Technol 取締役 執行役員) ■メディカルハーブでリラックス ・実施日:2022年1月23日(日) 参加者9名 ・講師:大島望(PALETTEハンドメイドとハーブのお店) ■【特別企画】大人に教えてみたいこと!①「JOMON is FUN」 ・実施日:2021年10月9日(土) 参加者23名 ・講師:杉本よし壘(八戸市立北稜中学校2年生) ②「数学のおもしろいところ」 ・実施日:2022年3月20日(日) 参加者9名 ・講師:小瀬川音(八戸高等学校3年生)	様々なテーマに合わせて、多様な講座やワークショップを開催することにより、参加者に体験や学びの機会を提供し、生活に変化をもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心街にこだわりつつ、テーマを設定した企画内容とすることにより、各分野について深く学ぶ機会が提供でき、参加者の生活に変化が生まれるような企画として継続的に実施していく。	定期的かつ継続的に中心街での学びの機会を提供することにより、リピーターや新たな来館者の増加につながることも、中心街の賑わい創出につながる。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
9	1	2	パフォーマンスアート事業	八戸ポータルミュージアム	R4	市民へ舞台芸術の観賞機会を提供するとともに、実施者との関係を構築し、地域の舞台芸術・パフォーマンス活動が活性化される環境づくりをする。	公募により広く舞台芸術に関する公演を募集し、シアター2などで定期的に公演を実施するとともに、合わせて市民向けのワークショップやアウトリーチなども実施する。	3	1,964	プロジェクト大山によるダンス公演を実施。翌年度の公演実施に向けて公募を実施。4組のアーティストを選定。	年間4公演程度のパフォーマンスアート公演を継続的に実施。学校等と連携しアウトリーチを実施。	将来的には、市民参加によるパフォーマンスアート公演の実現法王を検討する。	市民が舞台公演を鑑賞する機会を創出することで地域のパフォーマンス活動の活性化、文化芸術活動の振興につながっている。
10	1	2	八戸大使ふるさとセミナー	広報統計課	H19	八戸市の次代を担う人材を育成する。	八戸市の次代を担う人材を育成することを目的に、八戸市内の教育機関の要請に応じ、八戸特派大使を講師として派遣し、八戸特派大使からその豊かな知識や経験に基づき児童・生徒・学生を対象に講演をしていただく。(八戸特派大使には、落語家、歌人等がいる)	200	532	開催8校 ①八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校(メロニー・ブロック氏)「これからの共生社会を生きる皆さんへ」 ②八戸市立多賀台小学校(桂小文治氏)「落語の世界」 ③八戸市立第一中学校(豊嶋裕子氏)「勇気・イマジン・愛」 ④八戸市立西白山台小学校(梅内美華子氏)「校歌に込められた思い、言葉の大切さ」 ⑤八戸市立日計ヶ丘小学校(豊嶋裕子氏)「ピアノと歌のコンサート」 ⑥青森県立八戸水産高等学校(関橋英作氏)「魔法の言葉 コピーライティングという技」 ⑦八戸市立高等看護学院(豊嶋裕子氏)「イマジン・勇気・愛」 ⑧青森県立八戸高等支援学校(豊嶋裕子氏)「勇気・イマジン・愛」	引続き、八戸大使ふるさとセミナーを継続実施。より多くの学校に実施していただくため、セミナーの様子を市のホームページに掲載し、学校関係者が市へ要望しやすいようにする。	各学校からの依頼により講師派遣を行っているが、学校や講師に偏りがないようにしたい。	市内の児童、生徒、学生が各方面で活躍している八戸大使の講演を聴くことで、将来の夢や目標を見つけたり、知見を広める機会となっている。
11	1	2	子育てつどいの広場事業(八戸ポータルミュージアム内「こどもはっち」)	こども未来課	H22	就学前の乳幼児とその親(以下「子育て親子」という。)が気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で、様々な遊びや体験を通じて相互に交流を図る場を提供し、子育てについての相談、情報提供、助言その他の援助を行うことにより、子育てへの孤立感や負担感の緩和を図り、安心して子育てをできる環境を整備し、地域子育て支援機能の充実を図ることを目的とする。	(1)子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 (2)子育て等に関する相談、援助の実施 (3)地域子育て関連情報の提供 (4)子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 (5)豊かな遊びの空間の提供と遊びやものづくりに関する体験講座等の実施 (6)地域の子育て力を高める取組の実施 (7)八戸圏域連携中枢都市圏における連携事業の実施	15,389 (委託料15,300 備品購入費89)	15,140	施設利用者数:延べ21,615人(イベント含まず) イベント開催回数:107回(おたのしみ工作、読み聞かせ、おうちかん写真展など) イベント参加者数:9,366人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの開催を制限、同時利用者数の施設内の消毒を一日に複数回行いながら事業を実施している。	引き続き、各種イベントの企画・実施により文化芸術に触れる機会の提供を図っていく。	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の減少が見られるため、感染拡大防止対策をした上で、どのように利用者数を回復させるか。	多くのイベントを開催することで、多くの親子に文化芸術に触れる機会の提供が図られている。
12	1	2	おすすめ!キッズブック事業	子育て支援課	R1	子育てに関わる人に対し、絵本や読み聞かせを通して、親(保護者)と子の触れ合いと子の情操教育に資する支援を行う。また、読み聞かせを行う団体、施設に関する情報を広く集約し、本を手にする事ができる機会や場を周知することで、本のまち八戸の推進の機運を高める。	①おすすめ絵本リストの作成と周知 おすすめしたい絵本を関係団体に選書していただき、リストを作成・周知する。 ②おすすめしたい絵本のエピソード募集 市ホームページなどから、おすすめしたい絵本と、そのエピソードを募集する。 ③おすすめ絵本情報配信 ①で作成したリストをもとに、おすすめしたい絵本のチラシを作成し、定期配信する。	0	0	①・③ 関係団体(八戸ブックセンター、市立図書館、こどもはっち、学校司書)におすすめ絵本を選書していただき、おすすめ絵本とエピソードを子育て情報配信事業「はちすく通信」LINEにて配信した。 ②市民を対象におすすめしたい絵本のエピソード募集を市ホームページで行ったが応募はなかった。 ④ 読み聞かせ情報の集約・配信については、コロナの影響により読み聞かせ会の少人数制での開催、中止等により実施を見送った。 ⑤はちのへブックフェスが中止となり、おはなし会と絵本チラシ展示も中止した。	令和3年度に実施・予定していた事業を継続して実施する。	事業予算がないため、可能な範囲での事業実施となる。	読み聞かせ情報やおすすめ絵本の情報を提供することにより、絵本にふれるきっかけづくりや、絵本を通じた親と子のふれあい、子の情操教育に寄与している。
13	1	2	童話会補助金	子育て支援課	S35	青少年団体(八戸童話会)へ補助金を交付する。	八戸童話会が行う児童文化の実演を通して、子どもの健全育成を図るため、事業費の一部(補助対象経費の1/2又は50,000円のいずれか低い額)を補助する。	50	50	八戸童話会が行うおとぎ会開催に関する事業費の一部補助。 補助対象経費 102,213円 (102,213円×1/2=51,106円) 確定額 50,000円(<51,106円)	八戸童話会が行うおとぎ会開催に関する事業費の一部補助を継続実施。	なし	八戸童話会の活動支援に寄与している。
14	1	2	児童生徒文化活動促進費補助金	学校教育課	S50	学校教育の一環で行われる文化活動で、市の予選を通過した団体及び県大会以上(令和3年度より八戸市中学校文化連盟加盟中学校の在籍生徒及び所属団体は東北大会以上)に出場する団体並びに中学校における文化活動の啓発・支援、充実・発展を図ることを目的とした活動を助成する。	○運営費補助の上限 ・八戸地区吹奏楽連盟:116,000円 ・八戸市中学校文化連盟:30万円 ○大会派遣費補助の上限 ・県大会:10万円 ・東北大会以上:実績額の3割	752	2,776	○運営費補助 ・八戸地区吹奏楽連盟:116,000円 ・八戸市中学校文化連盟:280,750円 ○大会派遣費補助 ・吹奏楽: 6団体 115名 ・合唱: 2団体 23名 ・バトン: 1団体 8名	継続実施	なし	補助金事業により、学校や保護者の負担を軽減し、児童生徒たちの活躍の場を確保することができる。
15	1	2	学校図書館図書充実事業	教育指導課	不明	各小・中学校の児童・生徒数及び現在の蔵書率(図書標準達成率)により、予算を配分し、児童生徒の読書活動を推進する。	各小・中学校へ学校図書館用図書購入のための予算を配分し、図書の充足率の向上を図る。	22,459	22,459	令和3年度末の市内各校の図書充足率平均見込 小学校 89.1% 中学校 79.4%	各校の実情を勘案しながら、事業継続。	学校図書館の活性化のために、除籍を推進する必要があること。	各校において、児童生徒の実情に合わせて選書及び購入しており、読書環境の向上に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
16	1	2	劇団四季 こころの劇場 動画配信	教育指導課	R3	子どもたちの豊かな人間性や創造性の育成、また、文化芸術に親しむ環境づくりを目指す。	・希望する小学校の6年生対象。 ・劇団四季から無料で配信される動画を学校で視聴する。 ・新型コロナウイルスの影響により、令和2年度から劇場での公演を取り止め、令和3年度より動画配信の形をとっている。	0	0	・11月8日(月)～12日(金)の間に各小学校にて視聴。 ・視聴校数28校(八戸、吹上、長者、図南、中居林、柏崎、小中野、江陽、白鷗、大久喜、金浜、根城、白山台、西白山台、江南、田面木、下長、城北、高館、日計ヶ丘、三糸、西園、明治、桔梗野、轟木、多賀、多賀台、南郷) ・視聴人数1219人 ・演目『はじまりの樹～こそあどの森の物語～』	・令和4年度も動画視聴の形で実施する。 ・期間は11月7日(月)～11日(金) ・予定視聴校数36校 ・予定視聴人数1560人 ・演目『人間になりたがった猫』	令和5年度からは、以前の形に戻し、劇場での開催を計画している。	児童、教師とも良好な感想を得ており、児童の情操教育に寄与している。
17	1	2	文化庁 文化芸術による 子供育成総合 事業	教育指導課	不明	文化芸術団体による巡回公演を行い、舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子どもたちの芸術鑑賞能力の向上を図る。	・希望する学校が文化庁に申し込み、採択された学校が実施できる。 ・音楽、演劇、伝統芸能、メディア芸術など、複数の分野から選択することができる。	0	0	・八戸市立中居林小学校(音楽鑑賞) ・八戸市立白銀南小学校(音楽鑑賞) ・八戸市立高館小学校(事情により中止) ・八戸市立白山台小学校(音楽鑑賞)	・令和4年度も各校への案内を行う。	特になし	表現技能に関するワークショップを行うことにより、児童・生徒の表現力向上に寄与している。
18	1	2	文集はちのへ編 集委託事業	教育指導課	S29	八戸市の国語教育、特に作文教育の向上と充実を図る。	八戸市内小学校42校、中学校24校から、児童生徒の作品を募集し、編集委員による審査を経て、優れた作品を文集に掲載し発行する。	1,046	1,046	小学校編第68号出品数 168作品 中学校編第68号出品数 1,598作品	作文教育の更なる充実のために、事業継続。	出品数が伸び悩んでいること。編集委員の負担が大きいこと。	八戸市内の児童生徒の国語力、特に作文力の向上に寄与している。
19	1	2	マイブック推進 事業	教育指導課	H26	小学生が、保護者とともに書店に出かけ、自ら本を選び購入する体験を通して読書に親しむ環境をつくる。	八戸市内の小学校に在籍する全児童(1～6学年)及び県立特別支援学校小学部に在籍する全児童に、1人当たり2,000円分のクーポン券とガイドブック、ブックリストを配布する。	22,200	23,095	【配布児童数】 10,749名 【使用した児童の割合】 98.7% 【クーポンの執行率】 97.8%	「本のまち八戸」構想の実現に向け、事業継続。	クーポン未使用の児童に対する手立てを工夫すること。	使用率、執行率ともに高水準であり、事業の趣旨や方法が定着している。
20	1	2	「えんぶり」について の小・中学校 出前講座	博物館	H30	小・中学校を対象に伝統行事「えんぶり」について学習する。	30年度より2月17日が「えんぶりの日」となったことを機に、主に小・中学校を対象に実施。伝統行事「えんぶり」について講義を行う。	-	-	市内外小学校 計1校で実施。	各学校の要望により実施	内容の充実化	学校教育との連携及び「えんぶり」の振興発展に寄与している。
21	1	2	小・中学校での 出前授業	博物館	-	小学校を対象に昔の生活について学習する。	主に小・中学校を対象に実施。要望のテーマに応じて実物資料を学芸員が各学校へ持っていく、講義や体験学習を行う。	-	-	市内外小学校 計3校で実施。(うち2校リモートによる。)	各学校の要望により実施	内容の充実化	学校教育と連携し、その振興発展に寄与している。
22	1	2	小・中学生への 体験学習(博物館 内)	博物館	-	小学校を対象に昔の生活暮らしや資料について学習する。	主に小・中学校を対象に実施。考古・歴史・民俗の実物資料を使って昔の生活を体験する。各学校の来館見学时に併せて実施することが多い。	-	-	市内外小学校(主に3学年)延べ12校で実施。	各学校の要望により実施	内容の充実化	学校教育と連携し、その振興発展に寄与している。
23	1	2	小・中学生への 展示解説(博物館 内)	博物館	S58	博物館の展示資料等の解説	主に小・中学校を対象に、要望のテーマや学年・目的に応じた展示解説を実施。	-	-	市内外小・中学校 延べ37校の来館見学で実施。	各学校の要望により実施	内容の充実化	学校教育と連携し、その振興発展に寄与している。
24	1	2	小・中学生への 展示解説(南郷 歴史民俗博物館)	南郷歴史民俗資料館	S55	南郷歴史民俗資料館の展示資料等の解説	主に小・中学校を対象に、要望のテーマや学年・目的に応じた展示解説を実施。	-	-	市内外小・中学校 延べ2校の来館見学で実施。	各学校の要望により実施	内容の充実化	学校教育と連携し、その振興発展に寄与している。

施策 1 ふれる・ふかめる～文化芸術に親しむ～
取組方針 3 文化施設の文化プログラムの充実と連携

1	1	3	八戸イカール国 際音楽祭事業 (再掲)	文化創造 推進課	H30	市民が良質な音楽を鑑賞できる 機会の創出を行う。	プロの演奏家や音大教授等によるコンサートを実施する。 期間中、演奏家を目指す人を対象にしたレッスン(ミュージック キャンプ)も併催	800	800	補助金確定期額 80万円 ※減免額 3,029,250円(公会堂 2,361,270 / 公民館 667,980) 事業実施期間 R3.8.13～8.19 開催期間中の8月14日、新型コロナウイルス陽性者1名が判明したため、8/14午後以降のレッスン及び終了演奏会を中止。また、八戸市公会堂を会場に8/13～8/19の7日間連続コンサートを実施したが、8/14は中止、8/15以降は無観客オンライン配信により実施した。	補助予定額 80万円 ※減免額 2,169,990円(公会堂 456,600 / 公民館 1,713,390) 今後も事業が継続される予定であることから引き続き支援を継続する。	補助事業自体の成果はもとより、当市各方面への波及効果等を鑑みながら、中長期的な視点での検討を行う必要がある。	市内外からの参加者に好評を博した同催しで、ガラコンサートについても国内有数の演奏家が共演するめったにない芸術鑑賞の機会であり、今後も継続して支援してまいりたい。
---	---	---	---------------------------	-------------	-----	-----------------------------	---	-----	-----	--	--	--	--

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
2	1	3	文化プログラム・施設維持補修(南郷文化ホール)	文化創造推進課	H20	公共施設の文化プログラムの充実、及び、利便性と安全性が高い施設整備に資する。	指定管理者による自主事業(ソフト事業)及び施設整備を実施する。	10,557	400	○南郷文化ホールホールワイヤレスマイク設備改修工事 ○施設整備(備品購入) コンデンサー・マイクロホン2台、マイクスタンド5本、カッタースポットライト6個 ○施設整備(文化庁補助金活用事業) ホール内座席抗菌・抗ウイルス処理、空気清浄機4台設置、二酸化炭素濃度測定器4個設置 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のための施設休館 令和3年9月1日～9月30日/令和4年1月26日～3月21日	施設の稼働率向上等、より市民が使いやすい施設となるよう検討を進める。	建設から10年を超え、施設及び各種設備の老朽化による修繕が必要となっている。また、ホールの利活用促進に向けた人員の適正配置も含め、総合的な検討が必要である。	ホール利用率は概ね50パーセント台で推移しており、さらなる稼働率向上が必要である。
3	1	3	文化プログラム・施設維持補修(公会堂)	文化創造推進課	S52	公共施設の文化プログラムの充実、及び、利便性と安全性が高い施設整備に資する。	指定管理者による自主事業(ソフト事業)及び施設整備を実施する。			○施設整備(備品購入) コンデンサー・マイクロホン1式、バウンダリーマイクロホン2台、スポットライト10台、折りたたみ椅子30脚、台車1台 ○施設整備(文化庁補助金活用事業) ホール座席抗菌・抗ウイルス委託、映像配信システム一式、空気清浄機2台設置、二酸化炭素濃度測定器4個設置 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のための施設休館 令和3年9月1日～9月30日/令和4年1月26日～3月21日	施設の老朽化が進んでいるため、個別施設計画に則り、計画的に施設の修繕を実施する。	耐震工事は完了したが、各設備の老朽化が著しく今後計画的に工事・修繕を実施する必要がある。	休館前のホール利用率は概ね70パーセント台で推移しており、大規模改修により施設機能も大幅に強化されることから、リニューアル後はさらなるサービス向上を図り、利用者の満足度及び利用率向上に努めていく必要がある。
4	1	3	八戸市公会堂文化事業(委託事業)(再掲)	文化創造推進課	S50	鑑賞型だけではなく多様な文化事業を行い、幅広い年代の方々に、心の豊かさや生活の潤いをもたらす。	年間を通して、施設の設置目的に則したものを概ね5回以上実施する。 事業の実施に際しては、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律の趣旨を踏まえるとともに、他の文化施設・公共機関とのネットワークの活用、広報の充実及び市の文化施策推進について考慮する。	5,500	5,500	○実施 2公演 ・ディズニーオンクラシック「まほうの夜の音楽会」(11/2) ・第41回新人演奏会(11/16) ○中止 5公演・アウトリーチ(新型コロナ施設休館) ・仙台フィルハーモニー管弦楽団ガラコンサート ・角笛シルエツ劇場 ・宝くじ文化公演「秋川雅史・夏川りみハートフルコンサート」 ・第15回八戸パフォーミング劇場・第17回はちのへ子どもフェスタ ・なぎさプラスノリステン～金管五重奏と打楽器によるアンサンブル	基金残高を踏まえると今後10年以内に枯渇が見込まれることから、事業のあり方や財源の確保(ネーミングライツを予定)等について検討を進めていく。	公会堂文化事業費は、基金の利息と八戸小唄の著作権収入を充てて賄っているが、不足分については基金元本を取り崩して充当している。 基金利子収入及び著作権収入は年々減少傾向にあり、金融機関に預け入れしている基金元本からの取り崩しが増加しているため事業の内容や財源の確保(ネーミングライツを予定)について検討を行い、育成型・市民参加型事業の推進等に向け検討して参りたい。	「新人演奏会」や「八戸パフォーミング劇場・はちのへ子どもフェスタ」など、文化の担い手育成や心の豊かさ、生活の潤いをもたらす目的は一定程度果たされている。
5	1	3	文化プログラム・施設維持補修(公民館)	文化創造推進課	S52	公共施設の文化プログラムの充実、及び、利便性と安全性が高い施設整備に資する。	指定管理者による自主事業(ソフト事業)及び施設整備を実施する。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のための施設休館 令和3年9月1日～9月30日/令和4年1月26日～3月21日	1,918	970	●文化プログラム ・南部昔コ語り部養成講座(全5回)延べ136人 ・第9回うみねこ演劇塾(シニア塾 R3.10～R4.1 全17回 延べ456人 ※ジュニア塾との合計人数) ●施設整備 ○公会堂・公民館耐震改修建築工事 ホール内座席改修(段差解消)、トイレ改修(段差解消、全洋式化) ○備品購入単焦点プロジェクター1台 ○文化庁補助金活用事業 ホール内座席抗菌・抗ウイルス処理、空気清浄機4台設置、二酸化炭素濃度測定器4個設置、	施設の老朽化が進んでいるため、個別施設計画に則り、計画的に施設の修繕を実施する。	新たな参加者層獲得のため、新規事業の検討が必要である。 耐震工事は完了したが、各設備の老朽化が著しく、今後計画的に工事・修繕を実施する必要がある。	文化プログラムは継続実施しているため、認知度も上がってきており、地域文化の継承、情操教育に一定程度貢献していると考えている。休館前のホール利用率は概ね60%台で推移しており、会議室等も含めたより一層の稼働率向上が必要である。
6	1	3	南郷文化ホール文化公演事業(業務委託)(再掲)	文化創造推進課	R3	芸術文化の発表及び鑑賞の機会を提供することにより、芸術文化の普及振興を図るとともに広域的文化交流を促進し、市民生活の向上に寄与する	南郷文化ホールの文化公演事業(鑑賞型)の充実を図るため、指定管理者(株式会社アート&コミュニティ)に業務委託実施。	1,386	3,000	実績なし。 TingTing中国琵琶コンサート、小野リサ ポサノヴァ・コンサートを開催予定だったが、新型コロナウイルスに伴う施設休館により中止。	今後も継続して事業を実施し、地域住民が文化芸術に触れる機会を創出する。。	単に文化事業を開催するだけでなく、地域住民へのアウトリーチが必要なため、指定管理者と事業について検討し、内容充実を図りたい。	令和3年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、事業が実施できなかったが、地域住民が文化芸術に触れる機会を創出していると考えている。
7	1	3	文化プログラム・施設維持補修(南部会館)	文化創造推進課	H20	公共施設の文化プログラムの充実、及び、利便性と安全性が高い施設整備に資する。	指定管理者による自主事業(ソフト事業)及び施設整備を実施する。	6,135	42,128	○文化プログラム(ものづくり体験や伝統文化普及を目的に実施) ・ツキイチツクル「すみ御殿の手仕事展」ほか 延べ476人 ・第16回全国高校短歌大会作品 延べ197人	施設の老朽化が進んでいるため、個別施設計画に則り、計画的に施設の修繕を実施する。	より市民が使いやすい施設となるよう、指定管理者とともに検討を進める。また、施設の老朽化が進んでいるため、個別施設計画に則り、計画的に施設の修繕を実施する。	指定管理者が自社の新聞広告によりイベント周知したことで、参加者獲得に貢献したと考えられる。高い施設利用率で推移しており、拠点施設の一つとなっている。
8	1	3	文化プログラム・施設維持補修(更上閣)	文化創造推進課	H18	公共施設の文化プログラムの充実、及び、利便性と安全性が高い施設整備に資する。	指定管理者による自主事業(ソフト事業)及び施設整備を実施する。	12,699	13,573	施設維持補修 ・倒壊板塀簡易修繕	更上閣にぎわい広場を含めた、施設全体の賑わい創出のための実証実験を行う。 施設維持補修については、社会教育課とも連携しながら、PFなど方策を検討する。	施設の老朽化に伴い、修繕や工事などの施設維持費が多額となること予想される。 また、施設の認知度が低いことから、指定管理者とともに認知度の向上に努めていく。	新型コロナの影響もあったが、施設維持補修についてはできる範囲での対応は行った。ソフト事業については、指定管理者と共に課題解決に向けて取り組む必要があると考えている。
9	1	3	八戸ブックセンター事業	文化創造推進課	H28	「本のまち八戸」の拠点施設として、ブックセンターの運営を行う。「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」「本でまちを盛り上げる」の三つの基本方針のもと、各種事業を行う。	中心市街地に知的好奇心を満たす場としてブックセンターを開設することにより、来街者の増加と回遊性の向上を図り、中心市街地の活性化に繋げる。 本に関する新たな公共サービスを提供することで、市民の豊かな心を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちを目指す。	26,791	32,604	・施設運営 ・ギャラリー展の実施(中学生に伝えたい三浦哲郎 など5件) ・アカデミックの実施(6件、参加者88名) ・本のまち読書会の実施(1件、参加者14名) ・執筆出版ワークショップの実施(2件、参加者12名) ・パワーアップ事業の実施(2件、参加者28名) ・教育機関等との連携事業の実施(10件)	引き続き施設の運営及び、本のまち八戸推進のための企画事業を継続実施する。	新たに開設した美術館をはじめとする公共・民間施設との連携などにより、中心街への来街者増加等のための企画事業実施が必要である。	市内書店で手に入らないような本の陳列・販売のほか、本に関する多くの企画事業を実施するなど、市民が本に興味を持つことができるような事業を行うことで、「本のまち八戸」の推進拠点としての役割を果たしている。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
10	1	3	写真のまち八戸事業	美術館	H27	写真を用いて誰もが郷土の魅力を表現し、発信できる「写真のまち八戸」を構築し、写真芸術が広く根付く文化の薫り高いまちを目指す。	・世界的評価を受ける写真家と直接的に触れ合い、多様な写真の見方を学ぶ機会の創出 ・中心街の空き店舗等を会場とし、公募写真イベントを主軸とした、市民が主体となるアート・イベントの開催 ・プロの作家を招聘し、市民を対象としたワークショップや八戸での作品制作を行う。		17,829	写真家の佐藤時啓氏を招聘し、平成28年度から6年にわたり当市の地域資源をテーマとした写真の撮影と、作品制作を行った。	「写真のまち八戸」事業の集大成として、佐藤時啓氏による新作の写真約100点で構成する展覧会を開催するとともに、アートファーマーが参加する「リヤカメラプロジェクト」や、市内写真家の展覧会を同時開催するなど、市民と協働するプロジェクトを行う。さらに、展示作品を収録した写真集について、八戸ブックセンター等と連携を図り、美術館単独にとどまらないプロジェクト型の事業展開により制作する。	「写真のまち八戸」としての認知度向上を図る必要がある。	市内写真家を中心に、「写真のまち八戸」の名称使用により個展を開催するなど、写真を通じた市民活動の広がりが感じられ、一定の効果があると考えられる。
11	1	3	美術館展覧会開催事業	美術館	R3	美術講演会や創作講座を開催し、市民への教育普及活動の充実を図る。	誰もが気軽にアートに触れられる機会として、企画展やコレクションラボなどの展覧会を開催する。		19,293	1. 企画展 (1)開館記念「ギフト、ギフト、」 八戸三社大祭を出発点に「ギフト」の精神を考える、展覧会とプロジェクトで構成する企画展を開催。外部から複数アーティストを招聘し、地域の方々との交流を通して制作した作品を展示した。 会期:R3.11.3～R4.2.20 (2)「持続するモノガタリー語る・繋がる・育む」 旧美術館から約5年ぶりとなる、美術館の収蔵作品で構成する展覧会を開催。 会期:R4.3.19～R4.6.6 2. コレクションラボ(常設展) (1)コレクションラボ001「舟越保武 静謐の中に佇む」 美術館収蔵作品の中から、舟越保武の作品を展示。 会期:R4.3.19～R6.20	1. 企画展 (1)まるごと馬場のぼる展 絵本「11びきのねこ」シリーズで知られる、三戸町出身の漫画家・馬場のぼるの回顧展を開催。 会期:R4.7.2～R4.8.29 2. コレクションラボ(常設展) (1)コレクションラボ002「地をみつめる」展 八戸ゆかりの作家による、八戸市の風景が描かれた作品を中心に展示。 会期:R4.9.10～R5.1.16 (2)コレクションラボ003「(仮)新収蔵作品展」 令和4年度に新たに収蔵される作品を展示。 会期:R5.1.21～R5.4.10	美術や美術館にあまり関心のない方も来館いただけるよう、幅広いジャンルの展覧会を開催する必要がある。	コロナ禍で大規模な集客を図ることが難しい状況にあるものの、どの展覧会も旧美術館の時と比較して多くの方に観覧いただけており、一定の効果はあるものと考えられる。
12	1	3	「まちぐるみ」事業(AIR⇒中心街連携事業に変更)	八戸ポータルミュージアム	H27	市民の「やってみたい」アイデアをサポートし、中心商店街にワクワク感とまち歩きが楽しくなる仕掛けを目に見える形で作ることににより、市民力の結集や中心街の回遊性向上を図り、効果的に中心街に賑わいを創出するとともに、まちを動かす「ひと」を増やすことを目的とする。	・メンバーや中心街関係者、地元町内会店主等が不定期に集まり、企画のアイデア出しや情報共有する交流拠点として「まちぐるみラボ」を運営し、気軽にまちづくりに参加できる場と機会を創出する。 ・中心街との連携企画により、賑わいを創出し、中心街で定期的に開催されるイベントを企画するような、能動的な機運の醸成を図る。	3,099	3,412	アーティストの山本耕一郎組長のプロデュースにより、人々の「やってみたい」を「まちぐるみ」でサポートしてカタチにする市民集団「まちぐるみ」を運営するとともに、ひしぎワークショップ、組員による「まちぐるみ大学」、縄文関連企画等を実施。また、まちぐるみの1年間の活動を紹介するアーカイブ展「まちぐるみ展」を実施予定であったがコロナの影響で中止となった。 ■まちぐるみ presents はっち×南部菱刺し はっちの備品のパーテーションに南部菱刺しを施す市民参加型のワークショップを7回実施。 ■まちぐるみ大学 組員きむさん企画のまちぐるみ大学を2回開催。まちぐるみクリエイティブ部のメンバーが、各々の活動をプレゼンテーションした。 ■縄文企画 本八戸駅前通りに「縄文のうわさ」のぼりを制作して設置したほか、縄文グッズ(ひしぎ土偶コースター)を制作、販売できる仕組みを整え、グッズ制作販売を実施。	引き続き「まちぐるみ」の運営により、気軽にまちづくりに参加できる場と機会を創出しつつ、まちぐるみラボが位置する本八戸駅通り振興会などの中心商店街と連携した事業を企画・実施していく。	山本耕一郎組長やはっちスタッフサポートのもと、能動的に動ける「ひと」をより一層増やしていき、市民集団として自立した活動を展開できるような取り組みが必要である。	八戸の伝統工芸である「南部菱刺し」を気軽に体験できる企画など市民が参加できる企画により文化芸術の振興・中心街活性化に寄与している。
13	1	3	AIR事業	八戸ポータルミュージアム	R3	八戸の地域資源に焦点を当て、アーティストの視点により地域の魅力を掘り起こし、市民に新たな発見や驚き、感動、アートに触れ、体験する機会をもたすことを目的として実施。	まちと関わりながら、住民に新しい発見と感動を与えられ、交流のきっかけを作るアーティストを公募により選定し、アートプロジェクトを実施。必要に応じて関係者とのつなぎや事業広報、成果発表、記録等、アーティストをサポートして事業を実施する。	1,575	1,753	公募により選定された下記のプログラムを実施 ・杉原信幸×中村綾花 えんぶりえぼし、ゑんぶりすり 八戸えんぶりについて、祭りの起こりや衣装の変遷などを取材し、えんぶりにまつわる作品を制作。えんぶりの「烏帽子」をモチーフとした大型作品などをはっちコート内に展示。 ・ヨシタミナコ 八戸の市文化にふれる旅 館鼻岸壁朝市をはじめ、市内各地に点在し、市民の生活に根付いている八戸の「市文化」を取材し、「市図鑑」を制作、展示。	これまで同様、アーティストの新しい視点で八戸の魅力を発見・発信するというコンセプトは継続しつつ、はっちの中期運営方針や地域で抱えている課題の解決に資するようなプロジェクトテーマを設定し、プロジェクト及びアーティストの選定を行い実施する。	事業を公募するうえで、全国のアーティストに情報を伝える効果的な情報発信と、事業にふさわしいアーティストの選定。	アーティストの視点を通して市民が八戸の魅力を再認識する機会と、アートを身近で体験できる機会を創出することにより、文化芸術の振興発展に寄与している。
14	1	3	お祭り連携事業	八戸ポータルミュージアム	H23	当市を代表する伝統文化である「八戸三社大祭」、「八戸えんぶり」の期間中、当館の立地と特性を活かした展示や体験等を通じて、市民や観光客に祭りの魅力を多角的にPRし、賑わいの創出と回遊性の向上に資することを目的とする。	・八戸三社大祭期間中の山車展示、小太鼓体験、パネル展等 ・八戸えんぶり期間中のえんぶり公演、衣装着つけ体験等、えんぶりを楽しみながら知ってもらう機会を創出する。	61	664	「お祭りinはっち」…三社大祭に関するパネル展示や市民から募集したミニ山車展示、山車飾りによる水族館等を実施。 「えんぶりinはっち」…新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが、関連事業として、お祭りに関する作品を多く残している「三浦福壽仕事展」を3月に実施 ※八戸三社大祭、はちのへえんぶりとも、祭り自体は中止。	シーズンイベントの一環として、お祭り期間に合わせ、当館の立地と特性を活かした展示等を実施しながら、企画内容の見直し等を図る。 各祭りの実施団体や関係者との連携を図りながら、多くの市民や観光客が参加しやすい企画を実施する。	毎年継続実施していく中で、定番化している企画については、内容の見直しや実施の是非についての検討を行うなど、企画内容がマンネリ化しないよう努める。	・お祭り自体が中止となる中でも、祭りに関する展示や企画を実施することで、伝統文化である祭りの魅力の発信に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
15	1	3	暮らし学アカデミー(2-1)	八戸ポータルミュージアム	R3	文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなど、様々なテーマに合わせて、市内外の講師等による体験や学びの機会を提供することで、新たな来館者の獲得を目指すとともに、参加者の「暮らし」に質的な豊かさをもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心市街地にこだわりながら、八戸での暮らしを楽しむことにつながる学びの機会を提供することを目的に、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなどの多種多様な講座やワークショップを継続的に開催する。	100	872	<ul style="list-style-type: none"> ライフスタイル、環境、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、など生活を楽しむ多種多様な講座やワークショップを月1回程度開催。R3年度は9講座開催。 ■整理収納基礎講座(楽しむおうちゴト) <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2021年5月9日(日) 参加者29名 ・講師:長沖みのり ■本気のえんぶり人形術(人と〇〇と地球) <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2021年6月9日(水) 参加者19名 ・講師:下崎雅之 ■アウトドアデビューをしよう!(アウトドアのココロエ) <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2021年8月9日(月・振) 参加者8名 ・講師:亀橋陽平(グリーンハウス八戸店) ■キャンプYou Tuberいずみさんと、キャンプの極意を語る!(アウトドアのココロエ) <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2021年10月3日(日) 参加者30名 ・講師:いずみ(いずみキャンプチャンネル) 	様々なテーマに合わせて、多様な講座やワークショップを開催することにより、参加者に体験や学びの機会を提供し、生活に変化をもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心街にこだわりつつ、テーマを設定した企画内容とすることにより、各分野について深く学ぶ機会が提供でき、参加者の生活に変化が生まれるような企画として継続的に実施していく。	定期的かつ継続的に中心街での学びの機会を提供することにより、リピーターや新たな来館者の増加につながる。また、中心街の賑わい創出につながる。
16	1	3	暮らし学アカデミー(2-2)	八戸ポータルミュージアム	R3	文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなど、様々なテーマに合わせて、市内外の講師等による体験や学びの機会を提供することで、新たな来館者の獲得を目指すとともに、参加者の「暮らし」に質的な豊かさをもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心市街地にこだわりながら、八戸での暮らしを楽しむことにつながる学びの機会を提供することを目的に、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなどの多種多様な講座やワークショップを継続的に開催する。	100	872	<ul style="list-style-type: none"> ■プロが伝授!ラク家事お掃除テクニック(楽しむおうちゴト) <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2021年11月28日(日) 参加者15名 ・講師:今美由紀(八戸液化ガス株式会社 はちえきeレディ) ■ライフスタイルから選ぶインテリア(楽しむおうちゴト) <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2021年12月18日(土) 参加者25名 ・講師:柴田一則(株式会社 Technol 取締役 執行役員) ■メディカルハーブでリラックス <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2022年1月23日(日) 参加者9名 ・講師:大島望(PALETTEハンドメイドとハーブのお店) ■【特別企画】大人に教えてみたいこと】 <ul style="list-style-type: none"> ①「JOMON is FUN!」 <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2021年10月9日(土) 参加者23名 ・講師:杉本よし瑩(八戸市立北稜中学校2年生) ②「数学のおもしろいところ」 <ul style="list-style-type: none"> ・実施日:2022年3月20日(日) 参加者9名 ・講師:小瀬川音(八戸高等学校3年生) 	様々なテーマに合わせて、多様な講座やワークショップを開催することにより、参加者に体験や学びの機会を提供し、生活に変化をもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心街にこだわりつつ、テーマを設定した企画内容とすることにより、各分野について深く学ぶ機会が提供でき、参加者の生活に変化が生まれるような企画として継続的に実施していく。	定期的かつ継続的に中心街での学びの機会を提供することにより、リピーターや新たな来館者の増加につながる。また、中心街の賑わい創出につながる。
17	1	3	シーズンイベント	八戸ポータルミュージアム	H24	年間を通じて季節に合わせた、公演・ワークショップ・展示・館内装飾等の企画や中心街のイベント等と連携した企画を実施することで館内の季節感を演出し、中心街の賑わいを創出する。	年間を通じて、四季折々の季節感を演出する企画を実施する。企画内容については、季節や様々な記念日をテーマとし、関連した展示・館内装飾・体験型イベントなどを毎月1回程度実施する。	820	1,432	館内の季節感を演出する季節に合わせた、館内装飾やワークショップ、展示等を定期的(月1回程度)に実施。	季節に合わせた企画が日常的に行われているイメージを定着させることにより、多くの市民へはちゅへ興味を持ってもらい、新たな来館者の増加を図る。中心街のイベントやお祭り等もシーズンイベントとして連携した企画を実施していく。	取り上げる季節のテーマを変えたり、実施する企画の内容を工夫することにより、企画のマンネリ化を防ぎ、毎年変化のある企画内容とするよう努める。	来館者や参加者が季節を感じる事ができる企画が日常的に行われていることにより、来館者の増加や中心街の賑わい創出につながる。
18	1	3	市民活動支援事業	八戸ポータルミュージアム	H25	市民に活動を発信する機会を設けることで主体的に活動する市民を増やし、加えて来館することの楽しさを伝えることで、幅広い世代が創造性を持ち主体的に活動する環境を醸成し、中心街全体の賑わい創出に繋げる。	ストリート投げ銭ライブ、はちのへ演劇祭の開催により市民が中心となって制作・表現活動をする場を提供し、ライブや演劇を楽しむ機会を提供する。	200	297	ストリート投げ銭ライブ、はちのへ演劇祭、はちがずつぱど南部弁などを実施	引き続き、市民がより参加しやすい仕組み作り、市民が主体となって企画を実施するためのノウハウの提供方法を模索しながら継続実施していく。	新しい取組等をしている個人・団体を発掘し、市民が主体となり、企画を実施するためのノウハウを提供していく必要がある。	ストリート投げ銭ライブinはち、市民作家作品展示、はちがずつぱど南部弁など、はちの支援により、それぞれの企画が実施され、多くの市民の参加が図られている。
19	1	3	パフォーミングアーツ事業(再掲)	八戸ポータルミュージアム	R4	市民へ舞台芸術の観賞機会を提供するとともに、実施者との関係を構築し、地域の舞台芸術・パフォーマンス活動が活性化し環境づくりをする。	公募により広く舞台芸術に関する公演を募集し、シアター2などで定期的に公演を実施するとともに、合わせて市民向けのワークショップやアウトリーチなども実施する。	3	1,964	プロジェクト大山によるダンス公演を実施。翌年度の公演実施に向けて公募を実施。4組のアーティストを選定。	年間4公演程度のパフォーミングアーツ公演を継続的に実施。	将来的には、市民参加によるパフォーミングアーツ公演の実現法王を検討する。	市民が舞台公演を鑑賞する機会を創出することで地域のパフォーミングアーツ活動の活性化、文化芸術活動の振興につながっている。
20	1	3	横丁活性化事業	八戸ポータルミュージアム	H22	横丁・観光関係団体が連携し、期間を集中してイベントを一体的に実施することで、八戸の観光資源である「横丁」の魅力を外内に情報発信するとともに、市民の横丁文化への誇りと愛着を育て、次の世代に引き継げる八戸ならではの魅力、文化として定着させることを目的とする。	10月を「八戸横丁月間 酔っ払いに愛を」とし、関係団体と連携して「酔っ払いに愛を〜横丁オンリーユースター〜」など各種イベントを開催する。	616	1,500	新型コロナウイルス感染症の影響により「酔っ払いに愛を〜横丁オンリーユースター〜」等の事業を中止した。実施へ向けたディレクション業務委託やチラシ、ポスターのイラストデザイン制作謝礼及び印刷費等に係る負担金を支出。	横丁関係団体と連携して「酔っ払いに愛を〜横丁オンリーユースター〜」などの各種イベントを継続実施していく。	横丁で行うアート企画として、基本方針は維持しながらも、パフォーミングアーツを市民が楽しめる企画としての発展も必要。 ・企画内容について、来場者や横丁関係者により理解を深めてもらい来場者数増加を目指すため、各メディアを活用した積極的な広報活動が必要。	八戸の横丁の路地やお店の中を劇場に見立てダンス・芝居・トークなどアーティストによるパフォーマンスの実施により、横丁文化の魅力発信と文化芸術の振興が図られる。
21	1	3	ライブラリー事業	八戸ポータルミュージアム	H23	アートや文化、ものづくり、当市にゆかりのある方の書籍等を来館者に読んでいただくことで、本に親しみ、本を通じた文化振興、市民活動の活性化を図る。	・アートや文化、ものづくり、当市にゆかりのある方の書籍等を館内のライブラリーに配架し、来館者の閲覧に供するとともに、ライブラリーのコンセプトに適した本の選書、購入を行う。	275	372	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍購入(随時) ・毎月の特集開催 月例特集テーマ 4月 八戸・伝統・現代 伝統文化、5月 “気になる”を見つけよう 6月 スポーツ・体づくり、7月 三浦哲郎、8月 八戸の祭り 9月 秋の旬レシピ、10月 読書の秋、11月 写真家・浅田政志 12月 新刊紹介と高森美由紀、1月 手しごと・クラフト 2月 猫の世界※臨時休館のため中止、3月 癒し ・「しおりづくりワークショップ」開催 「南部裂織&押し花でオリジナルしおりを作ろう♪」 ・実施日:2021年11月20日(土) ・講師:工房「澄」、アトリエ小さな花 ・参加者:南部裂織11名、押し花53名 ・料金:南部裂織300円、押し花無料 	ライブラリー事業としてのワークショップ等は行わないが、ライブラリーの周知や利用者が利用しやすい環境づくり等により、今後も施設の展示機能の一つとして有効活用を図る。	より多くの市民に本を手にとってもらい、本に親しんでもらえるようライブラリーの利用促進を図る。	図書館や美術館、市内書店での取扱いが少ないアートや文化、ものづくり、当市にゆかりのある方の書籍等をライブラリーに配架することで、来館者が本に親しむ場が創出されている。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
22	1	3	手しごと展	八戸ポータルミュージアム	R3	地元産のもの・ことに触れる学びや体験を通して、八戸の豊かさを実感するとともに、市民が地域から生まれるもの・ことを身近に感じ、その魅力を再認識する機会を創出する。	市民が地域の伝統工芸を身近に感じ、楽しみながら学べる場として、市内で活躍する伝統工芸団体や作家と連携した展示、ワークショップ等の企画を実施する。	220	526	八戸に受け継がれる伝統工芸について、伝統工芸のつくり手たちの作品・仕事場・こだわりなどを取材し、それを生み出す技や制作にかける熱意といったひとの魅力や価値を紹介する展覧会を開催 ■はちのへ手しごと展～伝統の技をつむぐひとたち～ ・実施日:2022年1月8日(土)～10日(月・祝) ・入場者:840名(3日間合計)	引き続き、市民が地域の伝統工芸を学びながらその魅力を再認識する企画として継続してゆく。	ものづくりに関する展示、体験等を主とする企画展を継続しながら、新たな視点からの発想による付加価値の創出等による伝統工芸の活性化などを目指すプロジェクトを検討。	地域の文化である伝統工芸について学び、体験する良い機会となっており、文化の振興につながっている。
23	1	3	地区公民館運営事業	社会教育課	不明	各地区公民館において各種講座を開催し、一般教養の向上、実際生活に必要な知識・技術の習得など、多様な生涯学習の機会を提供する。	・文化芸術に関する自主講座を実施(舞踊、華道、書道、映画鑑賞、伝統芸能等) ・自主クラブ(茶道、華道、書道、囲碁、将棋、舞踊、詩吟等)の育成・支援 ・芸能団体等への貸館 ・公民館まつりにて高齢者、障害者等の作品展示 ・八戸市ホームページ及び公民館だよりにて公民館利用案内等を掲載	5,805	7,137	・文化芸術に関する講座 全24館にて315講座実施 小中野公民館「南部めくら暦」講師:古里 淳 白銀公民館「地域伝統の踊りを学ぶ」講師:加藤 たい子 欽公民館「菱刺教室」講師:山田 友子 上長公民館「書道教室」講師:佐藤 翠洋 柏崎公民館「きり絵教室」講師:大南 累世 等 ・文化芸術に関する自主クラブ 全24館にて157団体が活動 茶道、華道、書道、囲碁、将棋、舞踊、詩吟 等	引き続き、公民館講座を実施することにより、地域住民が文化芸術に触れる機会を提供する。また、公民館まつりにて、芸能発表・作品展示等、活動の場を提供することで、地域の文化芸術団体の育成・支援に繋げる。	公民館利用者の高齢化と固定化	公民館講座や公民館まつりなどで、地域住民が文化芸術に触れる機会を提供することができる。また、地域の文化芸術団体等への貸館で活動の場を提供することにより、団体の育成・支援に繋がっている。
24	1	3	常設展示等	是川縄文館	H23	国宝「合掌土偶」をはじめは川遺跡・風張1遺跡出土の国重要文化財を中心に展示公開し、縄文文化の魅力を伝える。	常設展示、是川縄文館運営、情報発信等に係る事業。	32,098	29,795	開館日数222日	継続実施	良好な展示環境の維持に努める。故障箇所の修繕及び常設展示ケースのメンテナンス。展示の一部更新(世界遺産登録対応)	展示機器の保守や展示替えにより良好な展示環境を維持に努めているが、故障が生じている。
25	1	3	特別展・体験講座等開催事業	是川縄文館	H23	特別展、企画展や様々な教育普及事業を通して埋蔵文化財の重要性、縄文文化の魅力を発信する。	特別展、秋季企画展、冬季企画展、体験学習、各種講座、講演会を開催。共同研究を実施。	19,709	25,612	企画展「是川遺跡の注口土器」(R2から延長)、特別展「是川遺跡」、秋季企画展「装い-身を飾る人びと-」、冬季企画展「是川遺跡の鉢形土器」、体験学習、各種講座、講演会を開催。弘前大学大学院との共同研究を実施。	企画展「是川遺跡の鉢形土器」(R2から延長)、特別展「行きかう土器とヒト」、秋季企画展「食と縄文人」、冬季企画展「是川遺跡の皿形土器」、体験学習、各種講座、講演会を開催。金沢大学との共同研究を実施。	今後も、特別展・各種講座等の開催により、市民に向けて文化財保護の重要性や縄文文化の価値等を伝えていく。	R3年度は、特別展5,863人、秋季企画展6,212人、冬季企画展1,786人の観覧者があった。コロナ禍のなか、体験教室及びリモートを含む講演会を行った。
26	1	3	古文書解説講習会	図書館	S60	郷土の歴史や古文書への知識を深める	八戸市指定文化財の「八戸藩日記」を活用した解説講習会を開催することにより、その内容を市民に広く公開するとともに、古文書解説者育成の足がかりとする。	102	0	7回開催 受講者数 延べ69人	八戸市所有の貴重な古文書を広く市民に知っていただくと共に、人材育成のため今後も実施し、受講後も古文書解説を続けていけるような方法を検討をする。	受講後も古文書解説を続けていけるような方法の検討が必要である。	解説講習会をきっかけに、参加者による古文書の会が4団体発足しており、その中から藩日記の解説をする人材や、古文書点検作業に携わる人材が育成されてきている。
27	1	3	図書資料等の購入	図書館	-	市民一人ひとりが、生涯にわたって、豊かで生きがいのある生活を送ることができるよう、「読むこと」「知ること」を支援するため、図書館資料の充実を図るとともに、さまざまな図書館サービスを展開し、利用促進に努める。	図書館資料を幅広く収集するとともに、良好な保存管理を行う。	26,085	20,620	図書資料購入:12,456冊 視聴覚資料購入:304点 企画展示 60回	幅広い分野の図書資料等を収集するとともに、企画展示や行事、広報活動などを行い、図書館の利用促進に努める。	図書の企画展示や行事等を充実させるとともに、図書館の利用方法や資料の利活用促進を図るため、広報活動の展開が必要である。	企画展示回数は、昨年度の約1.5倍の60回であった。昨年度より1日当たりの利用者数が増加していることから、利用者の興味を持つ企画立案により利用者増加に繋がっているものと考えられる。
28	1	3	常設展示	博物館	S58	博物館所蔵資料等の常設展示	考古・歴史・民俗・無形資料のテーマごとに、八戸の歴史を体系的に紹介	-	-	入館者数:延べ11,818人 特別展、企画展開催中を含む(開催中の常設展閲覧可) 開館日数:245日 コロナにより臨時休館 77日間 9/1～9/30 1/24～3/21 季節ごとに展示資料の一部入替え実施	継続実施	展示照明(蛍光管)LED化 展示解説等の多言語化 展示環境の改善	“よみがえる歴史・ひらけゆく未来”をメインテーマに、考古・歴史・民俗のテーマごとに八戸の歴史を紹介することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。
29	1	3	特別展・企画展開催事業	博物館	S58	特別展・企画展及び関連事業の開催	毎年、特別展を2回、企画展を4回程度開催	14,304	18,304	○夏季特別展「乱世の終焉」 入館者数:2,812人 併催事業 ギャラリートーク・講演会 ・体験講座・ワークショップ等 ○秋季特別展「今般廃藩之儀」 入館者数:4,240人 併催事業 ギャラリートーク・講演会 ・館外講座 ○企画展「新収蔵資料展」 入館者数:1,694人 ○企画展「えんぶり展」「ひな人形展」 コロナ禍により併催事業含めて中止 ○ミニパネル展「八戸の災害」 コロナ禍により臨時休館 HP、SNSで公開 ○新春ミニ企画「えと展-とら-」 入館者数:695人 併催行事 ぬいぐるみお泊り会	特別展2回、企画展4回程度開催予定	企画・展示内容の充実化	地域の歴史・文化について調査研究を蓄積し、その成果を企画展示により広く市民に公開することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
30	1	3	特別展・企画展開催事業	南郷歴史民俗資料館	H19	特別展・企画展及び関連事業の開催	毎年、特別展を1回、企画展を1回程度開催	3,175	5,249	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展「クジラの村」併催行事 コロナにより一部中止、内容変更 講演会、ギャラリートーク、体験学習会 ○ミニコレクション展「酒」 	特別展1回程度開催予定	企画・展示内容の充実化	地域の歴史・文化について調査研究を蓄積し、その成果を企画展示により広く市民に公開することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。
31	1	3	常設展示	南郷歴史民俗資料館	S55	南郷歴史民俗資料館所蔵資料等の常設展示	昭和の時代・暮らしをテーマに、戦時中のトーチカや戦後の街並みを再現	-	-	入館者数:延べ1,229人 特別展、企画展開催中含む(開催中の常設展閲覧可) 開館日数:241日 コロナにより臨時休館 72日間 9/1~9/30 1/24~3/6 季節ごとに展示資料の一部入替え実施	継続実施	展示解説等の多言語化 展示環境の改善	八戸・南郷の歴史を紹介することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
<p style="text-align: center;">施策 2 つくる・いどむ～新たな創造への取組～</p> <p style="text-align: center;">取組方針 1 「アートのみちづくり」の推進と文化創造へのチャレンジ</p>													
1	2	1	文化活動支援補助事業(再掲)	文化創造推進課	H20	多様で特色ある市民の自主的な文化活動を支援することにより、まちの魅力創造を図る	先駆的・実験的・創造的な芸術文化活動に対して、補助金を交付する。 対象経費、上限100,000円/団体	200	500	補助金交付先(計2件) まちぐみラボ2階ギャラリー化 & アトリエ計画 墨縁書展第10回記念特別企画 原拓展	支援内容を検証し、より実効性がある制度となるよう、見直しを図っていく。	制度設置から10年以上がたっていることから、現状にあった制度への変更の検討が必要。	新規の申請者や若年層の利用が少ない。
2	2	1	ワークショップ開催支援事業(再掲)	文化創造推進課	H20	八戸市公民館、八戸市南郷文化ホール、八戸市更上閣のいずれか1つを使用して、文化的なワークショップを開催するに当たり、八戸市が共催し支援することで当市の多文化を推進する。	対象施設(楽屋、附属設備等を含む。)の施設使用料の全額免除、ワークショップ開催のPR	0	0	申請なし	近年活用実績がないことから、支援内容の検証及び制度の周知に取り組んでいく。	新規の申請がないこと、制度設置から10年以上がたっていることから、現状にあった制度への変更の検討が必要。	ここ数年は申請がなく、当事業による文化芸術活動の活性化については、効果が出ていない。制度の見直しを検討したい。
3	2	1	八戸市公民館文化(自主)事業(再掲)	文化創造推進課	S52	八戸市全域の住民の教養向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する	指定管理者(株式会社アート&コミュニティ)が自主事業として、低額で芸術性の高い公演を提供し、市民の文化教養の向上を図る	0	0	・第9回うみねこ演劇塾(シニア塾 R3.10～R4.1 全17回 延べ456人 ※ジュニア塾との合計人数	地域の文化向上、情操教育に寄与するため今後も継続して実施する。	新たな参加者層獲得のため、新規事業の検討の余地あり。	継続して事業を行っているため、認知度も上がってきており、地域文化の継承、情操教育に一定程度貢献していると考えている。
4	2	1	アートプロジェクト	美術館	R3	外部人材を招聘し、地域の方々との交流や創作活動を通して、地域の新たな魅力や新しい価値を創出する。	外部からアーティストやゲストキュレーター等のクリエイティブ人材を招聘し、展覧会とプロジェクトが融合した企画を実施する。		20,678	1. 開館記念「ギフト、ギフト、」(再掲) 八戸三社大祭を出発点に「ギフト」の精神を考える、展覧会とプロジェクトで構成する企画展を開催。外部から複数アーティストを招聘し、地域の方々との交流を通して制作した作品を展示した。 会期:R3.11.3～R4.2.201. 展覧会 2. 向井山朋子パフォーマンス『gift』 世界的な活動を展開している美術家・音楽家の向井山朋子氏を招聘し、市民と一緒にパフォーマンス作品を制作・公演した。 作品制作:R3.10～11 公演:R3.11.14	1. ゲストキュレーター企画 外部からゲストキュレーターを招聘し、展覧会とプロジェクトが有機的に連動した企画を実施する。実施にあたり、国内外から複数のアーティストを招聘し、市民との協働創作活動から生まれた作品を展示する。 R4年度:展覧会開催に向けた準備、市民との協働創作活動を実施 R5年度:展覧会及び、関連プロジェクトを実施	市民参加者について、新規の方も参加しやすい体制づくりや広報に努める必要がある。	企画毎に美術館に興味を持って参加する市民が多くあるほか、招聘アーティストには八戸の魅力を知っていただき、市外で当市の良さを発信していただくなど、様々な効果があると考えている。
5	2	1	AIR事業(再掲)	八戸ポータルミュージアム	R3	八戸の地域資源に焦点を当て、アーティストの視点により地域の魅力を掘り起こし、市民に新たな発見や驚き、感動、アートに触れ、体験する機会をもたらすことを目的として実施。	まちと関わりながら、住民に新しい発見と感動を与えられ、交流のきっかけを作るアーティストを公募により選定し、アートプロジェクトを実施。必要に応じて関係者とのつなぎや事業広報、成果発表、記録等、アーティストをサポートして事業を実施する。	1,575	1,753	公募により選定された下記のプログラムを実施 ・杉原信幸×中村綾花 えんぶりえぼし、ゑんぶりすり 八戸えんぶりについて、祭りの起りや衣装の変遷などを取材し、えんぶりにまつわる作品を制作。えんぶりの“烏帽子”をモチーフとした大型作品などをはっちコート内に展示。 ・ヨシタミナコ 八戸の市文化にふれる旅 館鼻岸壁朝市をはじめ、市内各地に点在し、市民の生活に根付いている八戸の「市文化」を取材し、「市図鑑」を制作、展示。	これまで同様、アーティストの新しい視点で八戸の魅力を発見・発信するというコンセプトは継続しつつ、はっちの中期運営方針や地域で抱えている課題の解決に資するようなプロジェクトテーマを設定し、プロジェクト及びアーティストの選定を行い実施する。	事業を公募するうえで、全国のアーティストに情報を伝える効果的な情報発信と、事業にふさわしいアーティストの選定。	アーティストの視点を通して市民が八戸の魅力を再認識する機会と、アートを身近で体験できる機会を創出することにより、文化芸術の振興発展に寄与している。
6	2	1	パフォーマンス事業(再掲)	八戸ポータルミュージアム	R4	市民へ舞台芸術の観賞機会を提供するとともに、実施者との関係を構築し、地域の舞台芸術・パフォーマンス活動が活性化される環境づくりをする。	公募により広く舞台芸術に関する公演を募集し、シアター2などで定期的に公演を実施するとともに、合わせて市民向けのワークショップやアウトリーチなども実施する。	3	1,964	プロジェクト大山によるダンス公演を実施。翌年度の公演実施に向けて公募を実施。4組のアーティストを選定。	年間4公演程度のパフォーマンス公演を継続的に実施。 学校等と連携しアウトリーチを実施。	将来的には、市民参加によるパフォーマンス公演の実現法王を検討する。	市民が舞台公演を鑑賞する機会を創出することで地域のパフォーマンス活動の活性化、文化芸術活動の振興につながっている。
7	2	1	横丁活性化事業(再掲)	八戸ポータルミュージアム	H22	横丁・観光関係団体が連携し、期間を集中してイベントを一体的に実施することで、八戸の観光資源である「横丁」の魅力を外に情報発信するとともに、市民の横丁文化への誇りと愛着を育て、次の世代に引き継げる八戸ならではの魅力、文化として定着させることを目的とする。	10月を「八戸横丁月間 酔っ払いに愛を」とし、関係団体と連携して「酔っ払いに愛を～横丁オンリーユースシアター～」など各種イベントを開催する。	616	1,500	新型コロナウイルス感染症の影響により「酔っ払いに愛を～横丁オンリーユースシアター～」等の事業を中止した。 実施へ向けたディレクション業務委託やチラシ、ポスターのイラストデザイン制作謝礼及び印刷費等に係る負担金を支出。	横丁関係団体と連携して「酔っ払いに愛を～横丁オンリーユースシアター～」などの各種イベントを継続実施していく。	横丁で行うアート企画として、基本方針は維持しながらも、パフォーマンスを市民が楽しめる企画としての発展も必要。 ・企画内容について、来場者や横丁関係者により理解を深めてもらい来場者数増加を目指すため、各メディアを活用した積極的な広報活動が必要。	八戸の横丁の路地やお店の中を劇場に見立てダンス・芝居・トークなどアーティストによるパフォーマンスの実施により、横丁文化の魅力発信と文化芸術の振興が図られる。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
<p>施策2 つくる・いどむ～新たな創造への取組～</p> <p>取組方針2 クリエイティブビジネスの振興</p>													
1	2	2	「本のまち八戸」出版事業	文化創造推進課	R3	文化施設の出版物(図録等)を自ら出版し、流通(販売)させることで、施設の認知度向上などを行う。	ブックセンターが出版元となる機能を持たせ、文化施設との連携により図録等を出版し、ブックセンター及び民間書店等で販売を行う。	-	-	出版機能を持つための調査を実施。	文化施設の図録等の出版については引き続き調査を行う。ブックセンターの出版物(発行物)として、三浦哲郎作品朗読DVDを制作、販売する。	出版機能を持つことによる業務量・経費の増大に見合った効果を生み出すことが出来るか、細かな調査・検討が必要である。	未実施
2	2	2	大学資産を活用したアートの学び事業	美術館	R1	市内各大学の専門性と美術館の専門性を融合させ、新たな価値や活動を生み出すアートの学びの提供により、人材育成や地域経済の活性化につなげる。	美術館内に設置された大学のラボを拠点に、大学と美術館が連携した「アートの学び」のプログラムを提供する。		2,500	1. 幼児保育者向けアート教育普及事業 現場におけるアート教育の充実を図るため、市内保育園・幼稚園で働く保育士を対象に、「現代芸術教室アトイズ」のノウハウを、座学と体験券種を通して学ぶ講座を開催。 2. 「アート思考・デザイン思考」実践講座事業 変化が速く不確実性の高い中、八戸高専の教員を講師とし、日常生活や仕事に活用できる新たな気づきや発想を提供する、アートを切り口とした講座やワークショップを開催。 3. 美術館のアクセシビリティ向上事業 子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出する取組を展開する。	1. 三校連携創作体験ワークショップ開催 こどもから大人まで広く創作体験機会を創出するとともに、世代を超えてコミュニケーションを図ることを目的にアートワークショップを開催。 2. 学生×社会人のアートの学び実践講座 学生と社会人が一緒に交流し、外部講師とともにディスカッションやフィールドワークを行うなど、学生や社会人が美術館での学びを社会で実践できる講座を開催。 3. 美術館のアクセシビリティ向上事業 子育て世代が美術館に気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出する取組を展開する。	学生が活動に参加しやすい環境を創出する必要がある。	これまでの事業において、幼児保育や新ビジネス創出など、アート以外の分野とアートをかけ合わせることで、新たな発展を生み出す取組を展開してきたところである。効果が目に見えて現れるまでには時間がかかるところであるが、参加者からは好評をいただいております。継続的に取り組む必要がある。
<p>施策2 つくる・いどむ～新たな創造への取組～</p> <p>取組方針3 発信力強化とファンづくり</p>													
1	2	3	文化施設連携・情報発信事業(再掲)	文化創造推進課	H29	市内文化施設等が実施する文化芸術事業の情報集約を連携して行い、市民に提供することで、各施設の回遊性を高めるとともに、市民が文化芸術を享受するきっかけを創出する。	文化施設及びその他関係施設等で実施される文化芸術関係のイベントや助成金情報などを横断して収集し、その情報を市内文化施設等でのチラシ配布やWeb広告で周知する。	1,231	4,623	●市内文化施設等で実施する文化芸術関係のイベント情報、助成金情報などを横断して集約した月刊「八戸アート情報」を発行(H29.5～)し、市内文化施設等へ配布・設置(新型コロナウイルス流行に伴う各所イベント自粛により4～6月、2月は休刊) ●新聞広告でのアート情報掲載(全8回掲載) ●市ホームページの情報掲載(毎月更新) ●八戸市文化芸術推進基本計画策定や各施設等の情報共有を図るべく庁内連絡会議を実施(5回、6月・9月・10月・12月・2月)	ポータルサイトの設立や情報誌の発効に向けた検討を進めていく。	より効果的な文化芸術情報の発信に向け、庁内関係課のほか、民間施設や活動者の情報も集約できるような体制、仕組みづくりが必要である。	情報の集約と提供を行うことで、市内の文化芸術関連の催しを定期的に縦覧でき、各事業実施アンケートなどから新聞のアート情報をみて参加したという回答もあるため、これまでと比較して新規参加者等の獲得に一定程度貢献していると考えている。
2	2	3	オンラインチケット発券・キャッシュレス決済の導入	美術館	R4	展覧会チケット購入時に現金以外の決済方法を導入することにより、来館者の利便性向上を図る	展覧会開催時におけるオンラインチケット発券システムの導入及び、キャッシュレス決済の導入を検討する。	0	1,222	新型コロナウイルス感染症対策のため、新美術館プレイベント開催時に入館制限を行う必要があったことから、オンラインチケットサービスの試験的導入(無償使用)を行った。 1. オンラインチケットの発券 美術館でのチケット購入時に発券にかかる時間を短縮できるオンラインチケット発券システムを導入する。 2. キャッシュレス決済の導入 現金以外の方法で決済が可能となる、キャッシュレス決済を導入する。	オンラインチケット発券については予算化されていることから、導入に向けて着実に進めていく必要がある。キャッシュレス決済の導入にあたっては庁内連絡会議が設置されたことから、他施設と足並みを揃えて導入に向けて準備を進める必要がある。	現金以外の決済方法導入についてニーズが高いことから、実現した場合は一定の効果があると考えられる。	

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価	
			施策 3	まじる・まざる～文化芸術による共生～										
			取組方針 1	共生社会実現に向けた環境づくり										
1	3	1	施設整備事業(公民館)	文化創造推進課	S52	共生社会の実現に向けた環境づくりのため、ハード・ソフトの両面から、施設や情報、文化プログラムなどを利用しやすい環境づくりを推進する。	令和元年8月から令和4年1月まで特定天井にかかる耐震改修工事を実施。その際、施設のバリアフリー・ユニバーサルデザインの観点から、合わせて施設整備を実施した。	1,918	0	公民館ホール内座席改修(段差解消) トイレ改修(段差解消、全洋式化)	案内や解説等の多言語化、障がい者の鑑賞等におけるバリアフリーなど未着手の部分についても、計画的に推進する。	案内や解説等の多言語化、障がい者の鑑賞等におけるバリアフリーなど未着手の部分についても、計画的に推進する。	利用者のサービス向上に資することができた。	
2	3	1	美術館のバリアフリー・ユニバーサルデザインへの取組	美術館	R3	誰もが美術館を利用しやすい環境づくりを推進する。	障がいの有無や年齢、性的マイノリティといった個人個人の属性等にかかわらず、美術館を利用しやすい施設整備を図る。		0	1. 障がい者が利用しやすい環境整備 多目的トイレの設置や点字案内板の設置、車いすの方に配慮した水飲み器の設置等、バリアフリー対応の施設整備を行った。 2. 性的マイノリティへの対応 性的マイノリティの方も利用しやすいトイレとなるよう、将来的に「誰でもトイレ」に転用しやすいトイレの設計・建築を行った。	前年度に引き続き、障がい者や性的マイノリティの方が利用しやすい環境整備を図るほか、子育て世代の方が利用しやすい環境整備を図る。(キッズコーナー設置、無料託児ルーム開設)	障がい者の鑑賞等におけるバリアフリーの検討を進める必要がある。	多様な方々を受け入れられる体制が整いつつあると考えているが、誰もが利用しやすい美術館となるよう、様々な取組を行っていく。	
			施策 3	まじる・まざる～文化芸術による共生～										
			取組方針 2	社会包摂の取組の推進										
1	3	2	「本のまち八戸」各種機関との連携事業	文化創造推進課	R4	共生社会の実現に向けた情報提供等を行う。	関係団体との連携により、共生社会の実現に向けた情報提供等をブックセンターの書籍販売(棚づくり)において行う。	-	-		関係団体等と連携し、関連書籍を陳列・販売することにより来館者への情報提供等を行う。	関係団体等との関係性構築が必要となる。	青森レインボーパレード実行委員会と連携し、LGBTQの情報提供等が実現でき、今後の事業実施に向けた良い事例となった。	
2	3	2	ジャイアントルームの自由利用促進	美術館	R3	文化施設のサードプレイスとしての運営、居場所づくりを図る。	ジャイアントルームを一般開放し、勉強や仕事、打合せ、待ち合わせ場所等で自由にご利用いただく。	0	0	ジャイアントルームにフリースペースを設置し、電源・Wi-Fiを無料で使用できるようにするとともに、持ち込み飲食を可能とすることで、来館者にとってのサードプレイスとして様々な活動が行える場を提供した。	ジャイアントルームの自由利用のさらなる促進を図る。	ジャイアントルームで持ち込み飲食ができた。誰でも利用できることが市民の間に浸透していないことから、広報活動を積極的に行う必要がある。	コロナ禍においてオンラインミーティングを行ったり、仕事や勉強でジャイアントルームを自由利用する人の姿が見受けられ、一定の効果はあると考えられる。	
3	3	2	子育てつどいの広場事業(八戸ポータルミュージアム内「こどもはっち」)	こども未来課	H22	就学前の乳幼児とその親(以下「子育て親子」という。)が気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で、様々な遊びや体験を通じて相互に交流を図る場を提供し、子育てについての相談、情報提供、助言その他の援助を行うことにより、子育てへの孤立感や負担感の緩和を図り、安心して子育てをできる環境を整備し、地域子育て支援機能の充実を図ることを目的とする。	(1)子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 (2)子育て等に関する相談、援助の実施 (3)地域子育て関連情報の提供 (4)子育て及び子育て支援に関する講習等の実施 (5)豊かな遊びの空間の提供と遊びやものづくりに関する体験講座等の実施 (6)地域の子育て力を高める取組の実施 (7)八戸圏域連携中枢都市圏における連携事業の実施	15,389 (委託料 15,300 備品購入費 89)	15,140	ハンディキャップのある児童や家族を対象に、特別企画の工作や読み聞かせを行う、オレンジデーを3か月に1度開催している。	引き続き、各種イベントの企画・実施により文化芸術に触れる機会の提供を図っていく。	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の減少が見られるため、感染拡大防止対策をした上で、どのように利用者数を回復させるか。	多くのイベントを開催することで、多くの親子に文化芸術に触れる機会の提供が図られている。	
4	3	2	NHKハート展	障がい福祉課	H24	八戸市民に障がいのある方々への関心と理解を深めるとともに、障がいのある方々が文化活動に広く参加することを促進するため、NHKハート展を開催する。	全国の障がいのある方から応募された詩の入選作50点に、ボランティアで参加いただいた各界の著名人やアーティストの方々が、ハートをモチーフに作成した絵画等を組み合わせたアート作品の展覧会。 NHK福祉キャンペーン「NHKハートプロジェクト」の一環として実施されている「NHKハート展」の八戸展として開催。	0	0	開催期間:令和4年3月22日(火)～3月31日(木)10日間 会場:八戸ポータルミュージアム はっち(1階シアター1) 内容:障がいのある方が自由に表現した詩を紹介する展覧会(NHK番組出演者10名がこれまでの入選作品から選んだ10編の展示) その他:令和3年度はオリンピックの開催等に併し、NHKではハート展を開催しない予定であったが、急遽、全国巡回が決定し、上記の日程で開催	NHKと連携を図りながら、引き続き事業を実施していく。	一旦休止してしまうと、再開することが難しく、その場合、同様の内容で新規企画により障がいのある方の文化的活動を支援する必要がある。	市民の障がい児者への理解を深めるとともに、障がいのある方に文化活動に関心を持ってもらうための文化芸術活動事業であり、事業実施により、障がいのある方もない方も互いに人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に寄与している。	

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
5	3	2	愛の輪レクリエーション事業補助金	障がい福祉課	H18	八戸市手をつなぐ育成会が行う愛の輪レクリエーション事業に要する経費について、予算の範囲内で補助金を交付する。	在宅、施設を問わず、知的障がい児(者)とその家族、ボランティアが一堂に集い、音楽を通してお互いの親睦を深め、また、自らの活動意欲を育成するとともに、地域の人々の理解と協力を得て、社会に融和することを目的に開催される「愛の輪レクリエーション」に要する経費について、予算の範囲内で補助金を交付する。	200,000	200,000	補助金交付先:八戸市手をつなぐ育成会 対象事業名:愛の輪レクリエーション 開催日:令和3年10月17日(日) 場:八戸市総合福祉会館 参加者数:60名 内容:ミニコンサート その他:新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、時期や内容を見直して実施	引き続き事業補助金を交付する。	新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症発生状況によっては、参加を控える施設・保護者がいることが想定される。	障害に携わる方が、音楽を通じて交流する機会を設けることで、相互の親睦や障害への理解促進につながり、多様性のある共生社会の実現・文化芸術の振興発展に寄与している。
6	3	2	日本語教育支援事業	学校教育課	H21	NPO法人等と連携し、日本語が未習得である児童生徒の日本語学習を支援する。	八戸市立小・中学校に在籍している帰国児童生徒及び外国籍児童生徒に対して、本人及び保護者のニーズに応じて日本語教育支援講師を学校へ派遣し、日本語習得のための初期学習を支援することにより、学校生活への適応を図る。	763	965	支援を受けた人数:小学生7名、中学生3名	引続き、日本語が未習得である児童生徒が転入した際は、ニーズに応じて継続実施。	なし	児童生徒が学校生活へスムーズに適應できるようになるほか、情緒面での安定にもつながっている。

施策 3 まじる・まざる～文化芸術による共生～

取組方針 3 文化芸術を通じた国際交流の推進

1	3	3	三陸国際芸術推進委員会事業	文化創造推進課	H27	三陸地域の活性化及び郷土芸術と文化の継承・創造・発信を目的に、三陸国際芸術祭をはじめとした、各種企画事業、情報発信事業を実施する。	郷土芸術団体、海外の芸術団体、現代芸術家による「鑑賞」「体験」「交流」事業を実施する。	0	0	○「土地を彩る」シリーズ三陸の芸術 ・ナイモナイモ(白銀町)、櫛引八幡宮秋季大祭をホームページにおいて日英2か国語で広く紹介 ○「未来を彩る」シアタープロジェクト ・R4.3.13 はっちシアター2 ①オープニングパフォーマンス 鮫神楽 参加者数45名 ②シンポジウム第一部 芸術が生まれる地～郷土芸術とアーティストの出会いから～ 参加者数37名 第二部 三陸国際芸術祭と創造的な復興について～これまでの10年とこれからの10年を考える～ 参加者数20名 ○三陸国際芸術祭 三陸×アジアオンライン&トークセッション ・R3.12.19 十一日町えんぶり組、シルバーベルダンスグループ、 ○三陸芸術短期留学(オンライン) ・R4.3.21 「重地えんぶり」を習う 参加者数4名	当市も企画段階から関わるなどし、引き続き実施していく。	当市も企画段階から関わるなどし、引き続き実施していく。	コロナ禍であったが、オンラインを駆使し、幅広い事業が実施されたことは評価できる。
2	3	3	AIR事業(再掲)	八戸ポータルミュージアム	R3	八戸の地域資源に焦点を当て、アーティストの視点により地域の魅力を掘り起こし、市民に新たな発見や驚き、感動、アートに触れ、体験する機会をもたらすことを目的として実施。	まちと関わりながら、住民に新しい発見と感動を与えられ、交流のきっかけを作るアーティストを公募により選定し、アートプロジェクトを実施。必要に応じて関係者とのつなぎや事業広報、成果発表、記録等、アーティストをサポートして事業を実施する。	1,575	1,753	公募により選定された下記のプログラムを実施 ・杉原信幸×中村綾花 えんぶりえぼし、糸ぶりすり 八戸えんぶりについて、祭りの起こりや衣装の変遷などを取材し、えんぶりにまつわる作品を制作。えんぶりの“烏帽子”をモチーフとした大型作品などをはっちコート内に展示。 ・ヨシタミナコ 八戸の市文化にふれる旅 館鼻岸壁朝市をはじめ、市内各地に点在し、市民の生活に根付いている八戸の「市文化」を取材し、「市図鑑」を制作、展示。	これまで同様、アーティストの新しい視点で八戸の魅力を発見・発信するというコンセプトは継続しつつ、はっちの中期運営方針や地域で抱えている課題の解決に資するようなプロジェクトテーマを設定し、プロジェクト及びアーティストの選定を行い実施する。	事業を公募するうえで、全国のアーティストに情報を伝える効果的な情報発信と、事業にふさわしいアーティストの選定。	アーティストの視点を通して市民が八戸の魅力を再認識する機会と、アートを身近で体感できる機会を創出することにより、文化芸術の振興発展に寄与している。
3	3	3	青少年海外派遣交流事業	教育指導課	S60年	訪問国の歴史、文化、産業、教育等の視察や、青少年との親善交歓をとおして、国際協調の精神を育て、次代の国づくり、まちづくりを担う青少年の健全育成を図る。	昭和60年度の国際青年年の記念事業を契機として中学生を中国に派遣したことから事業が開始した。 平成4年度に米国、平成9年度にニューカレドニアへの派遣を追加した。 平成14年度からは、①中国班②米国・ニューカレドニア班に分けて、隔年で①と②に派遣している。 また、中国蘭州市から不定期で青少年交流団の受入れを行っている。	49	172	令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されることから、事業中止。 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が予断を許さない状況であることから事業中止。	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が予断を許さない状況であることから事業中止。	派遣、受入れどちらもホストファミリーの確保が難しくなっている。	訪問国の歴史、文化、産業、教育等の見学や、青少年との親善交歓をとおして、国際協調の精神を育て、次代の国づくり、まちづくりを担う青少年の健全育成を図るとともに、青少年団体活動へ寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
<p style="text-align: center;">施策4 のこす・いかす～伝統の継承と活用～</p> <p style="text-align: center;">取組方針1 世界遺産・是川石器時代遺跡の適切な保存と価値の伝達</p>													
1	4	1	常設展示等(再掲)	是川縄文館	H23	国宝「合掌土偶」をはじめは川遺跡・風張1遺跡出土の国重要文化財を中心に展示公開し、縄文文化の魅力を伝える。	常設展示、是川縄文館運営、情報発信等に係る事業。	32,098	29,795	開館日数222日	継続実施	良好な展示環境の維持に努める。故障箇所の修繕及び常設展示ケースのメンテナンス。展示の一部更新(世界遺産登録対応)	展示機器の保守や展示替えにより良好な展示環境を維持に努めているが、故障が生じている。
2	4	1	縄文の里整備事業	是川縄文館	H23	史跡指定地公有化や遺跡の復元、整備、是川遺跡や縄文文化に関する情報発信。	縄文の里整備に係る事業。	90,898	134,675	史跡指定地の維持管理、公有化実施。整備検討委員会の開催、第1期整備に係る史跡内既存施設の解体撤去	維持管理、公有化の継続実施のほか、第1期整備を順次進める。	・第1期整備の推進 ・近隣住民の要望を踏まえた史跡の維持管理(草刈)	史跡指定地のヤギ除草を継続実施し、市民の関心を高めた。史跡指定地の公有化を進めた(進捗率79.8%)。整備検討委員会を開催し、史跡内既存施設の地上部分解体撤去を進めた。
3	4	1	特別展・体験講座等開催事業(再掲)	是川縄文館	H23	特別展、企画展や様々な教育普及事業を通して埋蔵文化財の重要性、縄文文化の魅力を発信する。	特別展、秋季企画展、冬季企画展、体験学習、各種講座、講演会を開催。共同研究を実施。	19,709	25,612	企画展「是川遺跡の注口土器」(R2から延長)、特別展「是川遺跡」、秋季企画展「装い-身を飾る人びと-」、冬季企画展「是川遺跡の鉢形土器」、体験学習、各種講座、講演会を開催。弘前大学大学院との共同研究を実施。	企画展「是川遺跡の鉢形土器」(R2から延長)、特別展「行きかう土器とヒト」、秋季企画展「食と縄文人」、冬季企画展「是川遺跡の皿形土器」、体験学習、各種講座、講演会を開催。金沢大学との共同研究を実施。	今後も、特別展・各種講座等の開催により、市民に向けて文化財保護の重要性や縄文文化の価値等を伝えていく。	R3年度は、特別展5,863人、秋季企画展6,212人、冬季企画展1,786人の観覧者があった。コロナ禍のなか、体験教室及びリモートを含む講演会を行った。
4	4	1	世界遺産保存活用	是川縄文館	H23	世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産の保存活用。	世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産の保存活用を推進する。	4,824	4,342	・世界遺産登録決定(7月27日) ・世界遺産委員会パブリックビューイング、世界遺産登録記念セミナー、世界遺産登録記念式典の実施 ・世界遺産登録PR事業(看板等設置、ポスター・パンフレット作成、旅行誌等記事掲載、web記事掲載、ラッピングバス、オリジナルグッズ、小学校副読本作成) ・縄文遺跡群包括的保存管理計画施行、構成資産経過観察運用、遺産影響評価実施、会議出席、情報発信。	・世界遺産登録の周知 ・縄文遺跡群包括的保存管理計画施行、構成資産経過観察運用、遺産影響評価実施、会議出席、情報発信。	・遺跡の価値の伝達 ・現代的建造物の早期撤去	・2021年7月に世界遺産への登録が実現した。 ・経過観察、遺産影響評価に関係課を連携して取り組んだ。 ・各種PR事業を展開し、認知度の向上が図られた。
5	4	1	(一財)VISITはちのへインバウンド事業	観光課	R1	海外における八戸圏域の認知度を高め、インバウンド(訪日外国人観光客)の誘客促進を図る。	(一財)VISITはちのへに対し、インバウンドの誘客促進に要する経費を補助する。	24,001	24,000	・英・仏・台に現地エージェンシーを配置し、そのエージェンシーを通じて現地旅行会社やメディア等へ八戸圏域の魅力やPRするなど、八戸圏域の認知拡大を図るための活動を行った。	(一財)VISITはちのへが実施するインバウンドの誘客促進に関する取組を支援する。	インバウンドの受け入れに対応するための観光人材の確保と育成が必要である。	大手旅行誌で紹介されるなど、国外において八戸圏域の認知度向上が図られた。
6	4	1	(一財)VISITはちのへ情報発信事業	観光課	R1	八戸圏域の観光・物産に関する認知度を高め、交流人口の拡大とともに、地場産品の販路拡大を図る。	(一財)VISITはちのへに対し、八戸圏域の情報発信に要する経費を補助する。	19,243	19,851	・GoogleやYahooなどの大手検索サイトに八戸圏域の観光・物産素材の広告を掲載した。 ・ホームページやSNS、ラジオを活用し、八戸圏域の観光・物産資源の情報発信を行った。	(一財)VISITはちのへが実施する八戸圏域の観光・物産に関する情報発信の取組を支援する。	従来の方法に限定することなく、より効果的で効率的な情報発信の方法を模索する必要がある。	デジタル広告やSNS等を活用した情報発信により、国内外において八戸圏域の認知度向上が図られた。
7	4	1	(一財)VISITはちのへ旅行商品造成支援事業	観光課	R1	八戸圏域の観光コンテンツの造成支援及び磨き上げを行い、観光誘客の促進を図る。	(一財)VISITはちのへに対し、観光コンテンツの造成支援及び磨き上げに要する経費を補助する。	5,020	3,500	・専門家を招聘し、助言をいただきながら観光コンテンツの造成支援及び磨き上げを行った。 ・八幡平DMO等と連携し、台湾市場向けに北東北をレンタカーで周遊するプランの造成に取り組んだ。	(一財)VISITはちのへが実施する観光コンテンツの造成支援及び磨き上げに関する取組を支援する。	冬季間に観光入込客数が減少することから、冬季間における新たな観光コンテンツの造成が必要である。	新たな観光コンテンツが造成され、旅行商品の流通強化が図られた。

<p style="text-align: center;">施策4 のこす・いかす～伝統の継承と活用～</p> <p style="text-align: center;">取組方針2 地域に根ざす文化の継承と発展</p>													
1	4	2	八戸小唄まつり事業補助金(再掲)	文化創造推進課	H23	八戸市制施行の2年後に誕生した「八戸小唄」は、八戸市を全国にPRするために作られ、今なお歌い、踊り続けられ市民に愛されている。その「八戸小唄」のさらなる普及と次世代への継承を図ることを目的とする。	八戸小唄誕生の頃から新井田川にかかる唯一の橋であり、歌詞に出てくる「湊橋」を中心とした地域において開催される「湊橋八戸小唄まつり」と八戸小唄発祥の「石田屋旅館」のある紋町で開催される「さめ浜まつり」に対し「八戸小唄」のさらなる普及と次世代への継承を図ることを目的として補助金を交付。	0	700	新型コロナウイルス感染症の影響によりさめ浜まつり及び湊橋八戸小唄まつりは中止	今後も、地域の実施主体による継続的な開催を支援し、内容の充実を図り、八戸小唄の更なる普及・伝承に努めたい。	八戸小唄の更なる普及・伝承のため、補助金額及び補助金交付自体のあり方も含め、将来を見据えた検討が必要。	湊橋八戸小唄まつりは、八戸小唄の流し踊りに多くの市民が参加し、見物人も多数訪れており、また、さめ浜まつりについても例年、燕島神社周辺を中心に盛り上がりを見せていることから、補助の目的である八戸小唄の普及・伝承につながっている。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
2	4	2	八戸市公民館文化(自主)事業(再掲)	文化創造推進課	S52	地域に伝える生活文化、方言などの後継者の育成を図るため、体験機会の創出や発信の取組を推進する。	指定管理者が自主的に行う事業として、企画実施する。	0	0	・南部昔言葉部養成講座(全5回)延べ136人 ・第9回うみねこ演劇塾(シニア塾) R3.10~R4.1 全17回 延べ456人 ※ジュニア塾との合計人数	地域の文化向上、情操教育に寄与するため今後も継続して実施する。	新たな参加者層獲得のため、新規事業の検討の余地あり。	継続して事業を行っているため、認知度も上がっており、地域文化の継承、情操教育に一定程度貢献していると考えている。
3	4	2	お祭り連携事業(再掲)	八戸ポータルミュージアム	H23	当市を代表する伝統文化である「八戸三社大祭」、「八戸えんぶり」の期間中、当館の立地と特性を活かした展示や体験等を通じて、市民や観光客に祭りの魅力を多角的にPRし、賑わいの創出と回遊性の向上に資することを目的とする。	・八戸三社大祭期間中の山車展示、小太鼓体験、パネル展等 ・八戸えんぶり期間中のえんぶり公演、衣装着つけ体験等、えんぶりを楽しみながら知ってもらう機会を創出する。	61	664	「お祭りinはっち」…三社大祭に関するパネル展示や市民から募集したミニ山車展示、山車飾りによる水族館等を実施。 「えんぶりinはっち」…新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが、関連事業として、お祭りに関する作品を多く残している「三浦福壽仕事展」を3月に実施 ※八戸三社大祭、はちのえんぶりとも、祭り自体は中止。	シーズンイベントの一環として、お祭り期間に合わせ、当館の立地と特性を活かした展示等を実施しながら、企画内容の見直し等を図る。 各祭りの実施団体や関係者との連携を図りながら、多くの市民や観光客が参加しやすい企画を実施する。	毎年継続実施していく中で、定番化している企画については、内容の見直しや実施の是非についての検討を行うなど、企画内容がマンネリ化しないよう努める。	・お祭り自体が中止となる中でも、祭りに関する展示や企画を実施することで、伝統文化である祭りの魅力の発信に寄与している。
4	4	2	暮らし学アカデミー(2-1)	八戸ポータルミュージアム	R3	文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなど、様々なテーマに合わせて、市内外の講師等による体験や学びの機会を提供することで、新たな来館者の獲得を目指すとともに、参加者の「暮らし」に質的な豊かさをもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心市街地を楽しむことにつながる学びの機会を提供することを目的に、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなどの多種多様な講座やワークショップを継続的に開催する。	100	872	ライフスタイル、環境、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、など生活を楽しむ多種多様な講座やワークショップを月1回程度開催。R3年度は9講座開催。 ■整理収納基礎講座(楽しむおうちゴト) ・実施日:2021年5月9日(日) 参加者29名 ・講師:長沖みのり ■本気のえんぶり人形嚙(人と〇〇と地球) ・実施日:2021年6月9日(水) 参加者19名 ・講師:下崎雅之 ■アウトドアデビューをしよう!(アウトドアのココロエ) ・実施日:2021年8月9日(月・振) 参加者8名 ・講師:亀橋陽平(グリーンハウス八戸店) ■キャンプYou Tuberいずみさんと、キャンプの極意を語る!(アウトドアのココロエ) ・実施日:2021年10月3日(日) 参加者30名 ・講師:いずみ(いずみキャンプチャンネル)	様々なテーマに合わせて、多様な講座やワークショップを開催することにより、参加者に体験や学びの機会を提供し、生活に変化をもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心街にこだわりつつ、テーマを設定した企画内容とすることにより、各分野について深く学ぶ機会が提供でき、参加者の生活に変化が生まれるような企画として継続的に実施していく。	定期的かつ継続的に中心街での学びの機会を提供することにより、リピーターや新たな来館者の増加につながることも、中心街の賑わい創出につながる。
5	4	2	暮らし学アカデミー(2-2)	八戸ポータルミュージアム	R3	文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなど、様々なテーマに合わせて、市内外の講師等による体験や学びの機会を提供することで、新たな来館者の獲得を目指すとともに、参加者の「暮らし」に質的な豊かさをもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心市街地を楽しむことにつながる学びの機会を提供することを目的に、文化芸術、地域の伝統、食、ものづくり、ライフスタイルなどの多種多様な講座やワークショップを継続的に開催する。	100	872	■プロが伝授!ラク家事お掃除テクニック(楽しむおうちゴト) ・実施日:2021年11月28日(日) 参加者15名 ・講師:今由紀(八戸液化ガス株式会社 はちえきeレディ) ■ライフスタイルから選ぶインテリア(楽しむおうちゴト) ・実施日:2021年12月18日(土) 参加者25名 ・講師:柴田一則(株式会社 Technol 取締役 執行役員) ■メディカルハーブでリラックス ・実施日:2022年1月23日(日) 参加者9名 ・講師:大島望(PALETTEハンドメイド&ハーブのお店) ■【特別企画「大人に教えてみたいこと」】 ①「JOMON is FUN!」 ・実施日:2021年10月9日(土) 参加者23名 ・講師:杉本よし登(八戸市立北稜中学校2年生) ②「数学のおもしろいところ」 ・実施日:2022年3月20日(日) 参加者9名 ・講師:小瀬川音(八戸高等学校3年生)	様々なテーマに合わせて、多様な講座やワークショップを開催することにより、参加者に体験や学びの機会を提供し、生活に変化をもたらすきっかけとする。	八戸の地域資源や中心街にこだわりつつ、テーマを設定した企画内容とすることにより、各分野について深く学ぶ機会が提供でき、参加者の生活に変化が生まれるような企画として継続的に実施していく。	定期的かつ継続的に中心街での学びの機会を提供することにより、リピーターや新たな来館者の増加につながることも、中心街の賑わい創出につながる。
6	4	2	ライブラリー事業(再掲)	八戸ポータルミュージアム	H23	アートや文化、ものづくり、当市にゆかりのある方の書籍等を来館者に読んでいただくことで、本に親しみ、本を通じた文化振興、市民活動の活性化を図る。	・アートや文化、ものづくり、当市にゆかりのある方の書籍等を館内のライブラリーに配架し、来館者の閲覧に供するとともに、ライブラリーのコンセプトに適した本の選書、購入を行う。	275	372	・書籍購入(随時) ・毎月の特集開催 月例特集テーマ 4月 八戸・伝統・現代 伝統文化、5月 “気になる”を見つけよう 6月 スポーツ・体づくり、7月 三浦哲郎、8月 八戸の祭り 9月 秋の旬レシピ、10月 読書の秋、11月 写真家・浅田政志 12月 新刊紹介と高森美由紀、1月 手しごと・クラフト 2月 猫の世界※臨時休館のため中止、3月 癒し ・「しおりづくりワークショップ」開催 「南部裂織&押し花でオリジナルしおりを作ろう♪」 ・実施日:2021年11月20日(土) ・講師:工房「澄」、アトリエ小さな花 ・参加者:南部裂織11名、押し花53名 ・料金:南部裂織300円、押し花無料	ライブラリー事業としてのワークショップ等は行わないが、ライブラリーの周知や利用者が利用しやすい環境づくり等により、今後も施設の展示機能の一つとして有効活用を図る。	より多くの市民に本を手にとってもらい、本に親しんでもらえるようライブラリーの利用促進を図る。	図書館や美術館、市内書店での取扱いが少ないアートや文化、ものづくり、当市にゆかりのある方の書籍等をライブラリーへ配架することで、来館者が本に親しむ場が創出されている。
7	4	2	手しごと展(再掲)	八戸ポータルミュージアム	R3	地元産のもの・ことに触れる学びや体験を通して、八戸の豊かさを実感するとともに、市民が地域から生まれるもの・ことを身近に感じ、その魅力を再認識する機会を創出する。	市民が地域の伝統工芸を身近に感じ、楽しみながら学べる場として、市内で活躍する伝統工芸団体や作家と連携した展示、ワークショップ等の企画を実施する。	220	526	八戸に受け継がれる伝統工芸について、伝統工芸の作り手たちの作品・仕事場・こだわりなどを取材し、それを生み出す技や制作にかける熱意といったひとの魅力や価値を紹介する展覧会を開催 ■はちのへ手しごと展~伝統の技をつむぐひとたち~ ・実施日:2022年1月8日(土)~10日(月・祝) ・入場者:840名(3日間合計)	引き続き、市民が地域の伝統工芸を学びながらその魅力を再認識する企画として継続してゆく。	ものづくりに関する展示、体験等を主とする企画展を継続しながら、新たな視点からの発想による付加価値の創出等による伝統工芸の活性化などを目指すプロジェクトを検討。	地域の文化である伝統工芸について学び、体験する良い機会となっており、文化の振興につながっている。
8	4	2	南郷ジャズフェスティバル開催事業	南郷事務所	H2	他地域との交流促進並びに南郷地域の文化の向上及び活性化を図ることを目的にジャズフェスティバルを開催する	地域住民と市が一体となり、一流奏者が出演するジャズフェスティバルを開催	0	12,000	開催中止 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため)	全国各地からの来場者により、他地域との交流促進並びに文化向上及び地域活性化の目的を果たすべくイベントを開催していく。	地域振興と興行のバランスを考慮しながら、知名度のある出演者と特に若年層に対して魅力あるジャズ以外のジャンルの音楽を取り入れた出演者の両面を踏まえた選定を行うと併し、野外フェスティバルの醍醐味を広くアピールして集客に努める。	「ジャズの里南郷」の代表的なイベントであるジャズフェスティバルは、日本有数の「夏の野外ジャズコンサート」として全国のジャズファンに広く認知されており、他地域との交流促進並びに文化の向上、地域活性化に結び付いている。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
9	4	2	物産販売促進事業	観光課	H19	八戸市の認知度を高め、当市の誘客促進及び物産振興を目的として、市民団体等の地場産品を活用した料理・食文化の普及活動を補助するもの。	八戸市内の団体の地場産品を活用した料理・食文化普及活動等の事業に要する経費について、予算の範囲内で補助金を交付する。	350	2,000	下記の1団体への補助金支出。 ・八戸ハマリレーションプロジェクト(交付額35万円) 八戸パイバースフェスタの開催及びポスター等作成事業	令和4年度は予算を増額したほか、食のイベントの開催経費など、補助対象経費を拡充し、支援を拡大することで、地場産品を活用した料理・食文化の普及活動を実施する八戸市内の団体を幅広く支援し、更なる物産の振興を図る。	特定の団体への補助金の交付が続いているため、新たな八戸市の食文化を発掘し、普及していくためにも事業内容について市内の団体に幅広く周知していく必要がある。	地場産品を活用した料理・食文化の魅力を発信する団体への補助金交付により、地場産品の販路拡大と地場産業の振興につながった。
10	4	2	みちのく五大雪まつり推進協議会負担金	観光課	S55	冬季における青森、秋田、岩手、三県の観光宣伝活動の共同化を図り、もって北東北三県観光事業を推進する。	北東北三県における冬季観光客の誘客を図るため、みちのく五大雪まつりのポスター作成、観光PR等を行う。 ※みちのく五大雪まつり…八戸えんぶり(青森県八戸市)、弘前城雪燈籠まつり(青森県弘前市)、いわて雪まつり(岩手県雫石町)、なまはげ柴灯まつり(秋田県男鹿市)、横手かまくら(秋田県横手市)、の北東北を代表する五つのまつり。	256	600	感染症拡大下において、各祭りの開催可否が不透明であること、県外へのPRを控えるべきという構成自治体からの要望を踏まえ、令和3年度は、ホームページの運営及び希望する自治体のみポスターの作成を実施した。 ポスター作成枚数:(B1)100部 (B2) 30部	新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みつつ事業を実施し、冬季の北東北三県における観光客の誘客促進に努める。	みちのく五大雪まつりの知名度が低い、引き続きPRを実施する必要がある。	5市町で連携してPRを行うことにより、冬季の北東北三県における観光客の誘客促進となっている。
11	4	2	八戸えんぶり関連事業	観光課	—	八戸えんぶりの開催及び県内外へのPRを支援し、当市への誘客促進を図る。	八戸えんぶりの開催に対する活動経費を助成する。 (令和元年度からは(一財)VISITはちのへが実施)	1,113	9,700	新型コロナウイルスの影響により、えんぶり行事はすべて取り止めとなったが、代替企画として、解説付きえんぶり動画のYouTube配信を行った。	令和4年5月1日には、代替イベントとして、はちのへホコテンの会場にステージを設け、全16組によるえんぶり披露を行った。(別途補助金を交付) 引き続き、当該支援を実施し、八戸えんぶりのPRと円滑な開催の支援に努めていく。	PR活動をはじめとした宣伝に努め、八戸えんぶりへの更なる誘客推進に努める。	国の重要無形民俗文化財に指定され、当地域における冬の代表的な郷土芸能である「八戸えんぶり」をより多くの方々へのPRすることで、観覧者数増加につながるものである。 また、八戸えんぶりの開催等の支援を行うことは、円滑な運営等につながるものである。
12	4	2	八戸三社大祭関連事業	観光課	—	八戸三社大祭の開催及び県内外へのPRを支援し、当市への誘客促進を図る。	八戸三社大祭の開催及びPRIに要する経費を助成する。 (令和元年度からは(一財)VISITはちのへが実施)	977	37,919	新型コロナウイルスの影響により八戸三社大祭の神社行列・山車運行は中止となったが、併催イベントの開催を支援した。	令和4年度においては、新型コロナウイルスの影響により八戸三社大祭の神社行列・山車運行が中止となったことから、代替イベントの開催を支援する。 令和5年度以降においては、八戸三社大祭の開催及びPRIに対する支援を継続する。	八戸三社大祭への更なる誘客推進に努める必要がある。	八戸三社大祭への入込客数は近年増加傾向にあることから、これまでの取組が一定の成果をあげており、本事業は当市の観光振興に寄与している。
13	4	2	農業新ブランド育成事業(伝統野菜関連事業)	農業経営振興センター	H27	伝統野菜の継承と食材としての魅力の発信	伝統野菜の継承と食材としての魅力の発信を行うもの。	1,242	1,837	◎はちのへ菊まつりに関して、八戸伝統野菜である「食用菊」の来歴や特徴、魅力を発信するための市の取組等をパネル展示。 展示日:令和3年11月6日～11月8日 ◎八戸伝統野菜である「糠塚きゅうり」をつかった子ども料理教室を開催。 開催日:令和3年8月7日 参加者:子ども7名 また、料理のレシピ・作り方等をYoutube動画にて配信。	引き続き伝統野菜の魅力発信に向けて取り組む。令和4年度は、はちのへ菊まつりでのパネル展示を継続するとともに、糠塚きゅうりについては、より多くの方に知っていただく機会とするため、糠塚きゅうりをメインとした「八戸夏やさいマルシェ」を開催。糠塚きゅうりを使用した新レシピの提案と料理実演、さらに無料のお振舞いを行う。	より多くの人に八戸伝統野菜の魅力を広め、認知度向上と需要拡大を図る必要がある。	八戸伝統野菜を知ってもらう機会となった。特に、料理教室では、対象を子どもとし、自宅に戻って親子で作ってみたい、家族での会話に繋がるなど、幅広い世代に対する食文化の継承に寄与している。
14	4	2	郷土食・行事食を取り入れた学校給食の提供	学校教育課	S26	学校給食を通じて、地域の伝統的な食文化についての理解を深める。	学校給食の献立として、郷土食や行事食、地域の特産品を提供することで、児童生徒が地域の伝統的な食文化を学ぶ機会とする。提供時は、校内放送資料等による情報提供も併せて行っている。	927,666	921,320	○郷土料理の提供…せんべい汁、ひつまみ、けの汁、ひき昆布の煮付け、煮こもり、たらの子炒り、こびりっこ等 ○行事食の導入…子どもの日、七夕、十五夜、冬至、クリスマス、お正月、節分、ひなまつり等 ○特産品・地場産品使用…いか、さば、菊、長いも、にんにく、りんご、南部せんべい等	引き続き、学校給食へ郷土料理や行事食、地域の特産品等を取り入れ、伝統的な食文化についての理解を深めていく。	大量調理のため、衛生管理や食材の購入の面から、学校給食に取り入れることの難しい郷土料理もある。また、特産品や地場産品については、自然災害等による不作・不漁等の理由で、食材確保が難しい場合がある。	児童生徒が郷土に感心をもち、地域の食文化を学ぶ機会となっている。
15	4	2	南部藩ゆかりの都市との交流事業	教育指導課	S62	南部藩ゆかりの都市との交流を通じ、歴史的遺産を正しく伝承し、「ふるさと」を愛する心を育み、もって少年の健全育成を図る。	市内の小学6年生からなる八戸市少年使節団を7月下旬、2泊3日の日程で岩手県遠野市及び紫波町へ派遣し、派遣先児童との体験交流活動を行うとともに、諸施設、文化遺産の見学を通じて歴史・文化等に触れる。 また、8月3日、4日には、遠野市の少年使節団を受入れ、三社大祭の引き子体験、種差少年自然の家において八戸市児童との交流活動を行う。	131	1,166	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため事業中止	新型コロナウイルスの感染状況を見極めて事業実施の可否を判断する。	特になし	派遣事業及び受入事業を行うことにより、児童の地元を愛する心を育み、健全育成に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
16	4	2	地区公民館運営事業(再掲)	社会教育課	不明	各地区公民館において各種講座を開催し、一般教養の向上、実生活に必要な知識・技術の習得など、多様な生涯学習の機会を提供する。	・地域に根ざす伝統芸能、生活文化など、受け継ぐ者の育成を図る自主講座 ・芸能団体等への貸館	5,805	7,137	・文化芸術に関する講座 全24館にて315講座実施 小中野公民館「南部めくら暦」講師:古里 淳 白銀公民館「地域伝統の踊りを学ぶ」講師:加藤 たい子 鯉公民館「菱刺教室」講師:山田 友子	引続き、公民館講座を実施することにより、地域住民が文化芸術に触れる機会を提供する。また、公民館まつりにおいて、芸能発表・作品展示等、活動の場を提供することで、地域の文化芸術団体の育成・支援に繋げる。	公民館利用者の高齢化と固定化	公民館講座や公民館まつりなどで、地域住民が文化芸術に触れる機会を提供することができる。また、地域の文化芸術団体等への貸館で活動の場を提供することにより、団体の育成・支援に繋がっている。
17	4	2	郷土芸能ビデオライブラリー事業(再掲)	社会教育課	H19	民俗芸能をデジタル映像に記録保存し、後継者養成事業や市民が自由に閲覧できるビデオライブラリーとして活用し、民俗芸能に対する理解と関心を深める。	民俗芸能団体の撮影や、かつて撮影・録音されたアナログデータのデジタル化を行う。	0	0	○八戸市HPで映像貸出周知 ○映像貸出19本(BefM、国立劇場、青森県教育庁、VISITはちのへ、他個人)	○八戸市HPで映像貸出周知 ○映像貸出 ○活動の記録撮影を継続。	膨大な古い映像等の効率的なデジタル化。映像等の公開基盤の整備。	伝統芸能の保存がはかれるとともに、継承のための資料が整いつつある。ダイジェスト編の活用により、伝統芸能の周知促進に一定の効果がみられる。
18	4	2	先人周知事業	社会教育課	H18	市民が郷土の歴史や文化に対する理解を深め、郷土に対する誇りや愛着の心が育まれるよう、先人の功績に容易に触れられる機会を創出する。	広くふるさと先人の功績を市民に伝えるため、先人に関する資料や情報を整理し、1人につきA1サイズ1枚にまとめたパネルを作成し、多くの市民が集まる場所(市民ホール、市内公共施設、ホテルロビー等)を巡回してのパネル展を開催する。	29	149	○先人パネル展開催(1か所・1回実施) ふるさと先人パネル展in公会堂 会期:R3.6.22~7.19 場所:八戸市公会堂ロビー 内容:制作済パネル5枚(経済)展示 ○八戸市ホームページ「八戸市ゆかりの先人たち」更新(情報修正含む) ○先人パネル貸出(4件)及び情報提供(1件) ○ふるさと先人資料収集検討ワーキング会議 期日:R4.2.18 出席:有識者2名 内容:今後の先人周知事業の方針について	○ふるさと先人資料収集検討ワーキング会議開催 2回 ○先人パネルの制作 3名分 ○先人パネル展開催(制作済先人パネルの活用) ○ネット先人館(八戸市HP「八戸市ゆかりの先人たち」)更新	残り7名で先人100名となるため、取り上げる人物についてワーキング会議で検討し、先人資料所在調査を進め、パネルを制作する。 制作済先人パネルを様々な切り口からグルーピングしてパネル展を構成し、市内各所で展示する。	R2年度に制作済先人パネルの活用方法を検討し、今後の利活用について見直しを立てることができた。 今後は制作済パネルの積極利用を推進するためのスキーム作りや、関連イベント等への貸し出しについて積極的に行いたい。
19	4	2	地域に根ざす文化の継承と発展事業	社会教育課	H25	各種文化財等の適切な保存管理・積極的な公開活用。	史跡、天然記念物、民俗文化財、国・県・市指定文化の各種文化財の適切な保存・管理を実施し、恒久的な保護措置を講じるとともに、積極的な公開・活用を促進する。	2,063	6,121	○八戸三社大祭の山車行事山車人形衣装修理事業(国庫補助) ○八戸地方えんぶり調査事業(国庫補助)	八戸地方えんぶり調査事業の実施と八戸三社大祭の山車行事山車人形衣装修理事業及び櫛引八幡宮危険木伐採事業への支援を行い、国指定文化財の適切な保護管理及び公開活用をはかる。	国・県・市指定の各文化財のうち、特に有形文化財については公開・活用のために修復等が必要なものもあり、それらの適切管理が課題である。	国指定文化財の修理や環境整備、さらに実態調査事業に着手したことで、文化財の保存が適切に図られるとともに、三社大祭及びえんぶりの文化財としての側面に着目される機会が増えた。
20	4	2	民俗芸能のタベ開催事業(再掲)	社会教育課	S53	市内で活動している民俗芸能団体の技術向上や伝承活動の活性化に寄与するとともに、市民の民俗芸能に対する理解と関心を喚起させることにより、民俗芸能の保存と伝承を図る。	市内の民俗芸能団体の技術向上や伝承活動の活性化を図るため、民俗芸能のタベを開催。	391	472	○第44回民俗芸能のタベ兼北緯40° ナニヤトヤラ連邦郷土芸能交流祭 開催日:令和3年12月5日(日) 会場:八戸市公会堂 出演団体:妻神八組、鯉神楽連中(以上タベ枠)、 二戸市・深山神社神楽、久慈市・戸呂町神楽保存会、 三戸町・斗内獅子舞保存会(以上ナニヤトヤラ枠) 観客数:約400人	○第45回民俗芸能のタベ 開催日:令和4年12月3日(土) 会場:八戸市公民館文化ホール 出演団体:4団体	文化財保護・継承を図るためにも未出演団体を減らしていく。	出演者及び来場者からおおむね好評を得、民俗芸能団体の活性化及び後継者育成に寄与している。
21	4	2	無形民俗文化財後継者養成事業(再掲)	社会教育課	S54	後継者養成を促進するための支援を行い、各地域に残る貴重な無形民俗文化財を後世へ継承する。	無形民俗文化財後継者養成事業の保存と伝承のための補助及び育成支援を行う。 後継者養成と用具の維持管理事業への補助金を交付する。	356	955	○無形民俗文化財後継者養成補助金交付(8団体) ○八戸三社大祭山車祭り行事保存会補助金を交付(1団体)	○無形民俗文化財後継者養成補助金を文化財保護団体へ交付 ○八戸三社大祭山車祭り行事保存会補助金を1団体へ交付	進学・就職に伴い辞める若手伝承者が多い。子どもたちが無形民俗文化財に触れる機会の増加をはかる。	補助金交付及び上演会の開催により、興味関心を醸成させ、後継者養成の一助となっている。
22	4	2	常設展示(再掲)	博物館	S58	博物館所蔵資料等の常設展示	考古・歴史・民俗・無形資料のテーマごとに、八戸の歴史を体系的に紹介			入館者数:延べ11,818人 特別展、企画展開催中含む(開催中の常設展開覧可) 開館日数:245日 コロナにより臨時休館 77日間 9/1~9/30 1/24~3/21 季節ごとに展示資料の一部入替え実施	継続実施	展示照明(蛍光管)LED化 展示解説等の多言語化 展示環境の改善	“よみがえる歴史・ひらけゆく未来”をメインテーマに、考古・歴史・民俗のテーマごとに八戸の歴史を紹介することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
23	4	2	特別展・企画展開催事業(再掲)	博物館	S58	特別展・企画展及び関連事業の開催	毎年、特別展を2回、企画展を4回程度開催	14,304	18,304	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季特別展「乱世の終焉」 入館者数:2,812人 併催事業 ギャラリートーク・講演会・体験講座・ワークショップ等 ○秋季特別展「今般廃藩之儀」 入館者数:4,240人 併催事業 ギャラリートーク・講演会・館外講座 ○企画展「新収蔵資料展」 入館者数:1,694人 ○企画展「えんぶり展」「ひな人形展」 ○コロナ禍により併催事業含めて中止 ○ミニパネル展「江戸の災害」 ○コロナ禍により臨時休館 HP、SNSで公開 ○新春ミニ企画「えと展-とら-」 入館者数:695人 併催行事 めいぐるみお泊り会 	特別展2回、企画展4回程度開催予定	企画・展示内容の充実化	地域の歴史・文化について調査研究を蓄積し、その成果を企画展示により広く市民に公開することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。

施策 4 のこす・いかす～伝統の継承と活用～

取組方針 3 文化財の保存と活用

1	4	3	八戸南部氏庭園事業	文化創造推進課	H17	藩政時代の庭園芸術が市民に認知され、シビックプライドの醸成に寄与する。	庭園内のツツジの開花及び紅葉の時期に合わせて、年2回、各4日間開園する。	4,474	4,569	R3.5.21(金)～5.24(月) 春の開園 総入場者数 539人 R3.10.22(金)～10.25(月) 秋の開園 総入場者数1,291人	市民による庭園整備(アートプロジェクト)など、最終的には通年開園を目標とした取組を検討する。	市民による庭園整備(アートプロジェクト)など、最終的には通年開園を目標とした取組を検討する。	広報等の効果により、市民のみならず県内外からの来園者も増えており、一定の成果はあると考えている。
2	4	3	文化財の保存・活用事業	社会教育課	H26	各種文化財等の適切な保存管理・積極的な公開活用。	史跡、天然記念物、民俗文化財、国・県・市指定文化の各種文化財の適切な保存・管理を実施し、恒久的な保護措置を講じるとともに、積極的な公開・活用を促進する。	2,063	6,121	○清水寺観音堂保存修理事業(国庫補助)	八戸地方えんぶり調査事業の実施と八戸三社大祭の山車行事山車人形衣装修理事業及び櫛引八幡宮危険木伐採事業への支援を行い、国指定文化財の適切な保護管理及び公開活用をはかる。	国・県・市指定の各文化財のうち、特に有形文化財については公開・活用のために修復等が必要なものもあり、それらとしての側面に着目される機会が増えた。	国指定文化財の修理や環境整備、さらに実態調査事業に着手したことで、文化財の保存が適切に図られるとともに、三社大祭及びえんぶりの文化財としての側面に着目される機会が増えた。
3	4	3	八戸圏域文化財魅力発信事業	社会教育課	R4	文化財そのものへ足を運ぶことで文化財の本来の価値を見直す契機を創出する。	八戸圏域では文化財を域内で面的に活用できておらず、本来の価値や魅力を損なっている場合があることから、新たな手法による情報発信を通じて文化財の魅力に対する理解の深化、興味喚起を促す。	0	502	—	域内文化財の興味・認知度向上の促進及び活用拡大、文化財の魅力創出による「ホンモノ」を見ることへの動機付け、自治体連携による域内の文化財保存管理方法水準の向上をはかる。	—	—
4	4	3	史跡等環境整備事業(長七谷地貝塚清掃・丹後平古墳群環境整備・根城跡土地取得事業を一括)	社会教育課	H28	国史跡丹後平古墳群、長七谷地貝塚、根城跡の適切な保護並びに積極的な公開活用	国史跡丹後平古墳群、長七谷地貝塚の保存活用計画を策定し、計画に基づいた適切な管理を実施する。また、史跡の積極的な公開・活用に向け、調査研究、環境整備計画の策定等を行う。	1,154	1,845	○史跡長七谷地貝塚、史跡丹後平古墳群の草刈・清掃(各2回)	引き続き、史跡長七谷地貝塚及び史跡丹後平古墳群の適切な保護、積極的な公開・活用をはかる。	史跡長七谷地貝塚及び史跡丹後平古墳群の保存管理計画の策定、史蹟環境整備計画の策定等。	2史跡の草刈・清掃を実施し、現場の適切な保存が維持されている。
5	4	3	史跡等標示事業	社会教育課	S54	市民に文化財及び由緒ある地名等を周知する。	市内に所在する、文化財及び由緒ある地名等の場所に標柱または説明板を設置する。またその修繕を行う。	489	350	○「番町」「寺横町」標柱修繕 ○「吉田初三郎邸宅跡」説明板修繕 ○老朽化した「種差海岸(ミイン地区)」説明板撤去及び廃棄	安全性及び美観上から緊急に修繕が必要な物件が多いため、3～4年間で集中的に修繕を行い、新設は一時停止する。	経年劣化による既設物の修繕が必要。標柱、説明板の周知及び活用が不十分。	文化財や由緒ある地名等の紹介になっている。
6	4	3	指定文化財管理事業	社会教育課	S58	国・県・市の指定文化財(有形文化財)の適切な保存管理を目的とし、文化財所有者へ防災等設備の保守・管理を行う。	国・県・市の指定文化財(有形文化財)の適切な保存管理を目的とし、文化財所有者へ防災等設備の保守・管理点検に係る経費の一部補助を実施する。	19	19	国重要文化財清水寺観音堂の防災設備保守点検費用等の一部補助	国重要文化財清水寺観音堂の防災設備保守点検費用等の一部補助	国・県・市指定文化財(有形)の適切な保存管理のための防災設備整備。	継続した防災設備点検の実施により、火災による文化財焼失を未然に防ぎ、且つ、火災時の迅速な対応への準備が整えられている。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
7	4	3	天然記念物蕪島ウミネコ繁殖地保護事業	社会教育課	S43 (委託による監視業務を開始)	国指定天然記念物「蕪島ウミネコの繁殖地」の適切な保存管理	国指定の天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」を適切に保護管理するため、毎年ウミネコが飛来する時期に、地元「ウミネコ繁殖地蕪島を守る会」に保護監視等を委託するほか、草刈りと清掃作業による環境整備を行い、繁殖環境の保護に努めるもの。	5,342	8,470	○保護監視等業務委託 ・監視期間 R3.4.1～R3.8.8 ・草刈/清掃期間 R3.4.1～R4.3.15 ○保護と活用についての意見交換会 ・期日 R4.3.18 ○蕪島100周年記念事業の実施 ・R4.3.8 記念セレモニー(於マリエント) ・記念ロゴマークの作成(八戸工業大学へ委託) ・記念看板設置(於蕪島) ・記念バナーフラッグ設置(於中心街、JR八戸駅) ・記念懸垂幕設置(於市庁別館前) ・広報はちのへ3月号へ特集記事掲載 ○キツネ等有害鳥獣駆除 ・R3.4.29～5.8、5.10～5.19 延べ20日間	○保護監視等業務委託 ・監視期間 R4.4.1～R4.8.8 ・草刈/清掃期間 R4.4～R5.3 ○保護と活用についての意見交換会の実施 ○蕪島100周年記念事業の実施 ・R4.6.18 記念シンポジウム(於マリエント) ・記念グッズ製作(委託) ・SNSを利用したイベント ○ウミネコの生態と植生の関連性を明らかにする環境調査の実施 ○保存活用計画策定に向けた調査事業 ○キツネ等有害鳥獣駆除 ・R4.5～R4.6	ウミネコ監視所の設置場所を検討し、国天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地保存活用計画」を策定する。	保護監視業務、草刈・清掃作業の実施により、ウミネコの営巣活動等が保全されている。 とりわけ、有害鳥獣による被害が増え、捕獲用のわな設置を実施したことにより、被害が抑えられた。
8	4	3	名勝種差海岸保護事業	社会教育課	不明	名勝種差海岸を適切に保存管理する	国指定の名勝「種差海岸」を適切に保存管理するため、保存管理計画及び運用指針に基づき各種保護事業を実施する。	1,099	1,006	○保護指導員8名によるパトロールの実施 ・回数:延べ105回 ○名勝地保護のためのクロマツ伐採等 ・R3.12実施(集積されたクロマツ及び実生松を委託により搬出・処分) ○名勝地保護のためのボランティアによる外来植物駆除 ・R3.5.15～9.8 10回実施 ○名勝地保護のためのオオハンゴンソウ駆除委託 ・R3.5.17～9.30(小舟渡平、日蔭沢付近)	引き続き、パトロールによる監視、増殖が問題となる植物の駆除などを行い、美しい景観の保護に努める。	特定外来生物オオハンゴンソウの継続的な駆除活動の実施。景観美化及び植生保護の周知の徹底。	業者委託及びボランティア団体による特定外来生物オオハンゴンソウ駆除活動の一定の成果が見られる。今後は、継続的な駆除活動実施のため、駆除活動の立会いや周知など積極的な支援を図る。また、駆除効率向上を狙った新しい駆除方法の実施を検討する。
9	4	3	埋蔵文化財の保存・活用事業	是川縄文館	H23	埋蔵文化財の恒久的な保護および公開・活用	・重要文化財「青森県是川遺跡出土品」の保存修理 ・収蔵資料の再整理及び公開・活用を行う。	10,742	11,317	・重要文化財「青森県是川遺跡出土品」の保存修理およびその周知 ・収蔵資料再整理(収納・データベース化) ・デジタルデータ公開(発掘調査報告書抄録等) ・著作権要項の作成(デジタルデータ公開関係)	継続実施	・重要文化財「青森県是川遺跡出土品」の第4期保存修理計画の立案 ・増え続ける収蔵資料(発掘調査出土品)の管理(収納・データベース化) ・3冊の発掘調査報告書PDF化完了。 ・デジタルデータ公開に向けた著作権要項を作成した。	重要文化財「青森県是川遺跡出土品」11点を保存修理した。 ・収蔵資料再整理(13遺跡326点の収納・データベース化)
10	4	3	古文書の解説・整理	図書館	H8	図書館所蔵古文書の整理を推進し市民が利用できるよう努める。	県重宝の「遠山家日記」及び八戸市指定文化財である「八戸藩日記」の解説本ならびに「市史双書」の刊行を行う。	3,452	4,165	『八戸藩遠山家日記』第10巻刊行 解説冊数27冊	当館所蔵の古文書の解説が完了していないため、今後も継続して実施していく。	解説技術を持った人材が高齢化してきていることから、今後の解説を推進していくため、人材の確保が必要である。	古文書を解説することで、広く市民にも、郷土の歴史に対する理解と関心を高められる。
11	4	3	資料収集	博物館	S58	博物館収蔵資料として収集・保存	資料の寄贈を受けることにより、郷土の歴史や文化を示す資料を収集・保存する。	-	-	寄贈(考古・歴史・民俗分野) 335点	継続実施	資料整理作業 収蔵場所の確保	郷土資料の散失を防ぎ、研究・活用に供するものとして保存することで、地域の歴史・文化の継承と社会教育の振興発展に寄与している。
12	4	3	収蔵資料保存修復事業	博物館	H24	博物館収蔵資料の保存修復	修復が必要な資料を、優先度の高いものから順次修復	8,636	7,937	考古資料修復 重要文化財丹後平古墳群出土品(大刀・刀5点・鉄器1点・須恵器1点) 歴史資料修復 絵図面13点(地籍図・絵図) 刀剣資料1点(研磨) 県重宝11点 本草資料保存処理2点(ミイラ)	考古資料修復 重要文化財丹後平古墳群出土品(大刀2点・鉄器2点・環状製品8点) 歴史資料修復 県重宝9点 絵図面1枚(絵図) 刀剣資料2点(研磨)	予算不足 収蔵環境の改善	収蔵資料の保全を図り、必要な処置を施すことにより、地域の歴史・文化の継承と社会教育の振興発展に寄与している。
13	4	3	特別展・企画展開催事業(再掲)	南郷歴史民俗資料館	H19	特別展・企画展及び関連事業の開催	毎年、特別展を1回、企画展を1回程度開催	3,175	5,249	○特別展「クジラの村」 併催行事 コロナにより一部中止、内容変更 講演会、ギャラリートーク、体験学習会 ○ミニコレクション展「酒」	特別展1回程度開催予定	企画・展示内容の充実化	地域の歴史・文化について調査研究を蓄積し、その成果を企画展示により広く市民に公開することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。
14	4	3	資料収集	南郷歴史民俗資料館	S55	南郷歴史民俗資料館収蔵資料として収集・保存	資料の寄贈を受けることにより、郷土の歴史や文化を示す資料を収集・保存する。	-	-	寄贈(民俗分野) 420点	継続実施	資料整理作業 収蔵場所の確保	郷土資料の散失を防ぎ、研究・活用に供するものとして保存することで、地域の歴史・文化の継承と社会教育の振興発展に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
15	4	3	常設展示(再掲)	南郷歴史民俗資料館	S55	南郷歴史民俗資料館所蔵資料等の常設展示	昭和の時代・暮らしをテーマに、戦時中のトーチカや戦後の街並みを再現	-	-	入館者数:延べ1,229人 特別展、企画展開催中含む(開催中の常設展閲覧可) 開館日数:241日 コロナにより臨時休館 72日間 9/1~9/30 1/24~3/6 季節ごとに展示資料の一部入替え実施	継続実施	展示解説等の多言語化 展示環境の改善	八戸・南郷の歴史を紹介することで、地域の社会教育の振興発展に寄与している。
16	4	3	資料調査	博物館 南郷歴史民俗資料館	S58	地域の文化財の調査研究	地域の文化財を調査研究し、その成果を展示や紀要などで公開する。	833	1,218	シンポジウムの開催 市内資料調査 研究紀要の発行 調査報告書の発行	市内資料調査 研究紀要の発行 調査報告書の発行	内容の充実化	地域の歴史・文化について調査研究を蓄積することで、地域の歴史研究の進展に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
<p>施策 5 つなぐ・ささえる～担う人・支える人の確保・育成～</p> <p>取組方針 1 専門人材の確保、育成</p>													
1	5	1	民俗芸能のタベ開催事業(再掲)	社会教育課	S53	市内で活動している民俗芸能団体の技術向上や伝承活動の活性化に寄与するとともに、市民の民俗芸能に対する理解と関心を喚起させることにより、民俗芸能の保存と伝承を図る。	市内の民俗芸能団体の技術向上や伝承活動の活性化を図るため、民俗芸能のタベを開催。	391	472	○第44回民俗芸能のタベ兼北緯40° ナニヤトヤラ連邦郷土芸能交流祭 開催日:令和3年12月5日(日) 会場:八戸市公会堂 出演団体:妻神杵組、欽神楽連中(以上タベ枠)、二戸市・深山神社神楽、久慈市・戸呂町神楽保存会、三戸町・斗内獅子舞保存会(以上ナニヤトヤラ枠) 観客数:約400人	○第45回民俗芸能のタベ 開催日:令和4年12月3日(土) 会場:八戸市公民館文化ホール 出演団体:4団体	文化財保護・継承を図るためにも未出演団体を減らしていく。	出演者及び来場者からおおむね好評を得、民俗芸能団体の活性化及び後継者育成に寄与している。
2	5	1	無形民俗文化財後継者養成事業(再掲)	社会教育課	S54	後継者養成を促進するための支援を行い、各地域に残る貴重な無形民俗文化財を後世へ継承する。	無形民俗文化財後継者養成事業の保存と伝承のための補助及び育成支援を行う。後継者養成と用具の維持管理事業への補助金を交付する。	356	955	○無形民俗文化財後継者養成補助金交付(8団体) ○八戸三社大祭山車祭り行事保存会補助金を交付(1団体)	○無形民俗文化財後継者養成補助金を文化財保護団体へ交付 ○八戸三社大祭山車祭り行事保存会補助金を1団体へ交付	進学・就職に伴い辞める若手伝承者が多い。子どもたちが無形民俗文化財に触れる機会の増加をはかる。	補助金交付及び上演会の開催により、興味関心を醸成させ、後継者養成の一助となっている。
3	5	1	古文書解読講習会(再掲)	図書館	S60	郷土の歴史や古文書への知識を深める	八戸市指定文化財の「八戸藩日記」を活用した解読講習会を開催することにより、その内容を市民に広く公開するとともに、古文書解読者育成の足がかりとする。	102	0	7回開催 受講者数 延べ69人	八戸市所有の貴重な古文書を広く市民に知っていただくと共に、人材育成のため今後実施し、受講後も古文書解読を続けていけるような方法を検討をする。	受講後も古文書解読を続けていけるような方法の検討が必要である。	解読講習会をきっかけに、参加者による古文書の会が4団体発足しており、その中から藩日記の解読をする人材や、古文書点検作業に携わる人材が育成されてきている。
<p>施策 5 つなぐ・ささえる～担う人・支える人の確保・育成～</p> <p>取組方針 2 中間支援機能の強化</p>													
<p>施策 5 つなぐ・ささえる～担う人・支える人の確保・育成～</p> <p>取組方針 3 文化ボランティアの活動振興</p>													
1	5	3	アートファーマープロジェクト	美術館	R3	美術館を拠点にアートを介して社会に関わる各種プロジェクトを展開し、美術館に能動的に関わる市民を増やす。	美術館を拠点に、アートを介して地域社会を育む様々な取組を、市民等(アートファーマー)との協働により実施する。		1,397	1. 向井山朋子パフォーマンス『gift』(再掲) 世界的な活動を展開している美術家・音楽家の向井山朋子氏を招聘し、市民と一緒にパフォーマンス作品を制作・公演した。 作品制作:R3.10~11 公演:R3.11.14 2. 建築ツアーガイド 美術館の建物の魅力や特徴を来館者に伝えるためのワークショップを行い、実際に建築ツアーガイドとして活躍するための実践的なプログラムを実施。	前年度に引き続き、アーティストの作品制作に携わるアートファーマー活動を展開するほか、建築ツアーガイドのように美術館運営に関わるアートファーマーの取組も行う。	アートファーマープロジェクトに関わる市民を増やす必要がある。	美術館の企画や運営に市民参加できる機会として、参加者から好評をいただいでおり、一定の効果はあると考えられる。
2	5	3	「まちぐるみ」事業(AIR⇒中心街連携事業に変更)(再掲)	八戸ポータルミュージアム	H27	市民の「やってみたい」アイデアをサポートし、中心商店街にワクワク感とまち歩きが楽しくなる仕掛けを目に見える形で作ることににより、市民力の結集や中心街の回遊性向上を図り、効果的に中心街に賑わいを創出するとともに、まちを動かす「ひと」を増やすことを目的とする。	・メンバーや中心街関係者、地元町内会店主等が不定期に集まり、企画のアイデア出しや情報共有する交流拠点として「まちぐるみラボ」を運営し、気軽にまちづくりに参加できる場と機会を創出する。 ・中心街との連携企画により、賑わいを創出し、中心街で定期的に開催されるイベントを企画するような、能動的な機運の醸成を図る。	3,099	3,412	アーティストの山本耕一郎組長のプロデュースにより、人々の「やってみたい」を“まちぐるみ”でサポートしてカタチにする市民集団「まちぐるみ」を運営するとともに、ひしざしワークショップ、組員による「まちぐるみ大学」、縄文関連企画等を実施。また、まちぐるみの1年間の活動を紹介するアーカイブ展「まちぐるみ展」を実施予定であったがコロナの影響で中止となった。 ■まちぐるみpresents はっち×南部菱刺し はっちの備品のパーティーションに南部菱刺しを施す市民参加型のワークショップを7回実施。 ■まちぐるみ大学 組員きむさん企画のまちぐるみ大学を2回開催。まちぐるみクリエイティブ部のメンバーが、各々の活動をプレゼンテーションした。 ■縄文企画 本八戸駅前通りに「縄文のうわさ」のぼりを制作して設置したほか、縄文グッズ(ひしざし土偶コースター)を制作、販売できる仕組みを整え、グッズ制作販売を実施。	引き続き「まちぐるみ」の運営により、気軽にまちづくりに参加できる場と機会を創出しつつ、まちぐるみラボが位置する本八戸駅通り振興会などの中心商店街と連携した事業を企画・実施していく。	山本耕一郎組長やはっちスタッフサポートのもと、能動的に動ける「ひと」をより一層増やしていき、市民集団として自立した活動を展開できるような取り組みが必要である。	八戸の伝統工芸である「南部菱刺し」を気軽に体験できる企画など市民が参加できる企画により文化芸術の振興・中心街活性化に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
3	5	3	ボランティアガイド事業	八戸ポータルミュージアム	H22	館内案内や展示を通じた八戸の紹介を通じて、はっち及び八戸の魅力を来館者へ伝える。	午前、午後それぞれ2名ずつを目安にボランティアガイドを配置し、館内展示物や施設の説明・案内を行うほか、視察受入時の館内案内などへも対応する。	1,072	1,658	令和4年3月31日現在32名が登録 ボランティアガイドとして年間延べ1,009人の方がガイドに従事。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により下記期間活動を休止。 8月28日～10月10日(日) 1月26日～3月31日(木) ボランティアガイドの資質向上を図るための研修を実施 ・7月13日 視察研究「八戸市美術館」参加者22名	引き続き、はっちを支えるボランティアプログラムとして継続していく。	新たなボランティアガイドの勧誘へ向けた、効果的な周知広報活動。	施設の機能のひとつである交流の場づくりとしての役割を担っている。
4	5	3	ボランティアガイド事業	是川縄文館	H23	展示解説・体験学習指導等を行うボランティアの知識・技能向上及び新規募集	展示解説・体験学習指導等を行うボランティア及び新たにボランティアとして活動を希望する方向けの研修会を実施	254	437	・前期サポートスタッフ研修会(5月～6月)6回実施 ・後期サポートスタッフ研修会(1月～2月)5回実施	継続実施	・ボランティアスタッフの高齢化 ・若手の新規ボランティア加入の促進	・研修会ごとに数名の新規加入者があったことに加え、中学生のスタッフも加入した。 ・世界遺産登録にあたり、関連する内容についての講習を研修会内で行った。
5	5	3	史跡根城の広場ガイド	博物館	H9	史跡根城の広場の案内・解説等	根城史跡ボランティアガイドが、来場者の希望に応じて、史跡のガイドや根城の歴史についての解説等を行う。	532	566	会員28名(令和4年4月現在) 年間を通して活動 令和3年度960人をガイド 広場内にボランティアガイドハウス設置(賃借) 養成講座 参加者:延べ34人 会員館外研修 参加者:15人	継続実施	後継者の確保と育成	史跡根城の広場の案内や歴史を紹介することで、地域の社会教育の振興発展、及び市内外への広場の宣伝・広報・来場者の拡大等に寄与している。

※事業費の単位:千円

No.	施策	取組方針	事業名	担当課名	開始年度	事業目的	事業概要	R3年度決算額	R4年度当初予算額	R3年度事業実施状況	R4年度以降の実施方針	今後の課題	事業効果についての担当課自己評価
<p>施策 6 あつめる・ひろめる～連携のソフトインフラ～</p> <p>取組方針 1 連携・協働を推進するプラットフォームづくり</p>													
1	6	1	はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード	文化創造推進課	H20	当市の文化政策を推進するための専門家による附属機関を設置	文化プラン(基本計画)に基づき、文化政策全般にかかる助言や進捗状況に対するご意見を頂きながら取り組む。	822	1,346	基本計画策定にかかる審議を6回開催 市長へ手交し策定。 R3年7月2日, 8月23日, 9月26日, 11月10日, 12月22日, R4年3月15日	文化プラン(基本計画)に基づき、文化政策全般にかかる助言や進捗状況に対するご意見を頂きながら取り組む。	文化プラン(基本計画)に基づき、文化政策全般にかかる助言や進捗状況に対するご意見を頂きながら取り組む。	市が実施する各種文化芸術施策等に有識者や市民からの意見を反映させる有意義な場となっている。
2	6	1	はちのへ文化のまちづくり推進にかかる庁内連絡会議	文化創造推進課	R2	当市の文化政策を推進するための附属機関「はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード」からの助言等に基づき、庁内横断的に取り組むための連絡会議を組織する。	文化プラン(基本計画)に基づく各種事業の進捗状況を整理し、具体的な取組について検討する。	0	0	基本計画策定にかかる審議を5回開催 R3年6月29日, 9月30日, 10月27日, 12月17日, R4年2月15日	文化プラン(基本計画)に基づく各種事業の進捗状況を整理し、具体的な取組について検討する。	会議とは別に、各課個別に取組にかかる検討が必要であると考えている。	概ね順調に取組めたと認識している。
<p>施策 6 あつめる・ひろめる～連携のソフトインフラ～</p> <p>取組方針 2 県や近隣自治体との広域連携の推進</p>													
1	6	2	青森アートミュージアム5館連携協議会事業	美術館	R3	県内の5つのアートミュージアムが連携し、それぞれが持つ魅力を面的なアート圏としての魅力に発展させ、県民及び観光客の周遊を促進し、幅広い分野での地域貢献に資することを目的とする。	「青森アートミュージアム5館連携協議会」に参加し、連携企画や一覧性の情報発信などに取り組む。		200	「建築」をテーマに、トークイベントの開催や共同での広報活動を展開した。	5館連携による企画の実施や5館周遊のための共通パス発行などの取組を検討する。	5館の運営体制がそれぞれ異なることから、各館の事情も踏まえながら連携を図る必要がある。	県内の特徴的な美術館という面的な発信により、八戸市美術館の認知度が向上し、観光客や視察対応に結び付いていると考えられる。
<p>施策 6 あつめる・ひろめる～連携のソフトインフラ～</p> <p>取組方針 3 事業資金確保の取組や企業メセナの推進</p>													
1	6	3	「本のまち八戸」クラウドファンディング事業	文化創造推進課	R3	市民のニーズを踏まえた多種多様な企画を実施していくための財源確保。	クラウドファンディングにより事業費に充当する財源を確保する。			本のまち八戸子どもプロジェクトとして、ふるさと納税型クラウドファンディングの実施(期間:令和3年11月～令和4年1月)(寄附金1,305,000円)	令和3年度の寄附を財源にして事業を実施する。(市内小学校42校×33冊)	クラウドファンディングを活用する事業の選定、事務手続きの簡略化	令和3～4年度に実施した事業について、小学生が本を手取るきっかけとなった。
2	6	3	基金充当事業	文化創造推進課	S50	継続的な事業運営に資するため、事業資金の確保に向けた取組を実施する。	ふるさと寄附金「公会堂事業基金」を取り崩して、公会堂文化事業の事業費に充てている。	5,500	5,500	令和3年度寄附金額 916,000円(個人106件) 基金残高 40,655,006円	基金残高を踏まえると今後10年以内に枯渇が見込まれることから、事業のあり方や財源の確保(ネーミングライツを予定)等について検討を進めていく。	市既存の文化関係基金の統合やネーミングライツの実施、企業メセナによる資金確保等、様々な検討をしていく必要があると考えている。	概ね順調に取組めたと認識している。